

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	カッホホジシ ヲホメダイ 学校法人 久留米大学								
フリガナ大学の名称	クホメダイ 久留米大学 (Kurume University)								
大学本部の位置	福岡県久留米市旭町67番地								
大学の目的	教育基本法及び学校教育法に基づき総合的専門的教育及び研究を行うことを目的とし、学識深く、教養の高い人材を育成し、併せて学術の進展並びに社会文化の向上に寄与することを使命とする。								
新設学部等の目的	メディカルテクノロジー（臨床検査、医療技術）を基盤とした臨床検査技師教育に、ヘルスサイエンス（健康科学）の基礎的・専門的教育を融合させたメディカルサイエンス教育を実現させ、科学及び医療・検査技術の進歩と医療ニーズの変遷に対応する能力の高い検査技師、つまり、次世代型臨床検査技師を育成する。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	医学部 [School of Medicine] 医療検査学科 [School of Medical Technology]	4年	74人	-	296人	学士（医療検査学）	令和6年4月第1年次	福岡県久留米市旭町67番地（令和6年度のみ） 福岡県久留米市東櫛原町777番地3（令和7年度以降）	
	計		74	-	296				
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）	久留米大学 医学部附属臨床検査専門学校（廃止）（△40） ※令和6年4月学生募集停止								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学部 医療検査学科	講義	演習	実験・実習	計	132（マネジメントサイエンス応用コース選択者は133）単位			
教員の組織概要	学部等の名称		専任教員等					兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等
	新設分	医学部 医療検査学科	8人 (7)	4人 (4)	0人 (0)	3人 (1)	15人 (12)	0人 (0)	184人 (187)
		計	8人 (7)	4人 (4)	0人 (0)	3人 (1)	15人 (12)	0人 (0)	184人 (187)
		既設	文学部 心理学科	6人 (6)	5人 (5)	0人 (0)	1人 (1)	12人 (12)	0人 (0)
		情報社会学科	6人 (6)	0人 (0)	2人 (2)	0人 (0)	8人 (8)	0人 (0)	317人 (317)
		国際文化学科	8人 (8)	7人 (7)	1人 (1)	0人 (0)	16人 (16)	0人 (0)	316人 (316)
		社会福祉学科	6人 (6)	1人 (1)	1人 (1)	2人 (2)	10人 (10)	0人 (0)	334人 (334)
		人間健康学部 総合子ども学科	4人 (4)	2人 (2)	1人 (1)	1人 (1)	8人 (8)	0人 (0)	218人 (218)
		人間健康学部 スポーツ医科学科	7人 (7)	2人 (2)	3人 (3)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	218人 (218)
		法学部 法律学科	16人 (16)	3人 (3)	0人 (0)	0人 (0)	19人 (19)	0人 (0)	254人 (254)
		国際政治学科	7人 (7)	1人 (1)	0人 (0)	0人 (0)	8人 (8)	0人 (0)	263人 (263)
		経済学部 経済学科	7人 (7)	5人 (5)	0人 (0)	0人 (0)	12人 (12)	0人 (0)	298人 (298)
		文化経済学科	5人 (5)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	10人 (10)	0人 (0)	293人 (293)
		商学部 商学科	15人 (15)	3人 (3)	3人 (3)	0人 (0)	21人 (21)	0人 (0)	225人 (225)
		医学部 医学科	49人 (49)	37人 (37)	48人 (48)	58人 (58)	192人 (192)	0人 (0)	189人 (189)
		看護学科	9人 (9)	7人 (7)	9人 (9)	14人 (14)	39人 (39)	2人 (2)	132人 (132)

教 員 組 織 の 概 要	既 設	学長直属	2 (2)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
		外国語教育研究所	6 (6)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	67 (67)
		留学生別科	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (12)
		基盤教育研究センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		保健管理センター	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		放射性同位元素施設	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		質量分析医学応用研究施設	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		歯科口腔医療センター	1 (1)	0 (0)	2 (2)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	4 (4)
		動物実験センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		医学教育研究センター	1 (1)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	5 (5)
		先端イメージング研究センター	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		地域医療連携講座	1 (1)	0 (0)	1 (1)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		分子生命科学研究所	2 (2)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		循環器病研究所	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		高次脳疾患研究所	1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		バイオ統計センター	2 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
		皮膚細胞生物学研究所	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		医学部附属病院	19 (19)	19 (19)	12 (12)	134 (134)	184 (184)	0 (0)	0 (0)
		医学部附属医療センター	6 (6)	9 (9)	3 (3)	7 (7)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
		計	190 (190)	117 (117)	94 (94)	223 (223)	624 (624)	0 (0)	— (—)
		合計	198 (197)	121 (121)	94 (94)	226 (224)	639 (636)	0 (0)	— (—)
		教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計	
			事 務 職 員	237 (237)		122 (122)		359 (359)	
			技 術 職 員	1,587 (1,587)		129 (129)		1,716 (1,716)	
図 書 館 専 門 職 員	8 (8)		3 (3)		11 (11)				
そ の 他 の 職 員	43 (43)		327 (327)		370 (370)				
計	1,875 (1,875)		581 (581)		2,456 (2,456)				
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計			
	校 舎 敷 地	207,300.30 m <sup>2</sup>	2,175.88 m <sup>2</sup>	675.04 m <sup>2</sup>		210,151.22 m <sup>2</sup>			
	運 動 場 用 地	68,586.00 m <sup>2</sup>	32,465.00 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		101,051.00 m <sup>2</sup>			
	小 計	275,886.30 m <sup>2</sup>	34,640.88 m <sup>2</sup>	675.04 m <sup>2</sup>		311,202.22 m <sup>2</sup>			
	そ の 他	212,221.90 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		212,221.90 m <sup>2</sup>			
合 計	488,108.19 m <sup>2</sup>	34,640.88 m <sup>2</sup>	675.04 m <sup>2</sup>		523,424.12 m <sup>2</sup>				
校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用		計				
	149,446.55 m <sup>2</sup> (136,600.19 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> (2,838.18 m <sup>2</sup> )	0.00 m <sup>2</sup> (3,025.65 m <sup>2</sup> )		149,446.55 m <sup>2</sup> (142,464.02 m <sup>2</sup> )				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	118 室	159 室	50 室	24 室 (補助職員 4人)	6 室 (補助職員 1人)				
専 任 教 員 研 究 室	新設学部等の名称			室 数		大学全体			
	医学部 医療検査学科			12 室					

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体の数 図書 874,041冊 〔248,571冊〕 学術雑誌 10,429冊 〔4,627冊〕 電子ジャーナル 12,622種 〔10,953種〕	
	医学部医療検査学科	43,940 [5,486] (43,940 [5,486])	3,657 [2,017] (3,657 [2,017])	2,987 [1,318] (2,987 [1,318])	286 (286)	2,162 (721)	2 (2)	視聴覚資料 6,483点	
	計	43,940 [5,486] (43,940 [5,486])	3,657 [2,017] (3,657 [2,017])	2,987 [1,318] (2,987 [1,318])	286 (286)	2,162 (721)	2 (2)		
図書館	面積 7862.41 m <sup>2</sup>		閲覧座席数 772		収納可能冊数 1,328,972				
体育館	面積 9331.06 m <sup>2</sup>		体育館以外のスポーツ施設の概要 野球場1面、ソフトボール場1面、テニスコート12面地						
経費の見積り 及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	教員1人当り研究費等：職位ごとに金額が異なるため、平均値にて計上。 図書購入費：電子ジャーナル、データベース、その他の経費（運用コストを含む。）も含む。
	教員1人当り研究費等		732千円	732千円	678千円	678千円	－千円	－千円	
	共同研究費等		0千円	0千円	0千円	0千円	－千円	－千円	
	図書購入費	1,036千円	6,481千円	6,481千円	6,481千円	6,481千円	－千円	－千円	
	設備購入費	127,843千円	187,097千円	285千円	600千円	600千円	－千円	－千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次		
	1,630千円	1,330千円	1,330千円	1,330千円	－千円	－千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学経常費補助金、雑収入等						
既設大学等の状況	大学の名称	久留米大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	文学部 心理学科	4年	87人	3人	349人	学士（心理学）	1.08 1.09	平成14年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	情報社会学科	4年	54人	3人	217人	学士（社会学）	1.04	平成14年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	国際文化学科	4年	106人	3人	426人	学士（文学）	1.10	平成4年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	社会福祉学科	4年	52人	3人	209人	学士（社会福祉学）	1.08	平成12年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	人間健康学部 総合子ども学科	4年	50人	－人	200人	学士（教育学）	1.10 1.06	平成29年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	スポーツ医科学科	4年	70人	－人	280人	学士（スポーツ医科学）	1.13	平成29年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	法学部 法律学科	4年	224人	3人	904人	学士（法学）	1.07 1.07	昭和62年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	国際政治学科	4年	70人	－人	274人	学士（法学）	1.08	平成6年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	経済学部 経済学科	4年	157人	3人	632人	学士（経済学）	1.09 1.11	平成6年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	文化経済学科	4年	100人	3人	401人	学士（経済学）	1.04	平成14年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	商学部 商学科	4年	250人	－人	1000人	学士（商学）	1.08 1.08	昭和25年度	福岡県久留米市御井町1635番地
	医学部 医学科	6年	115人	－人	690人	学士（医学）	1.06 1.05	昭和27年度	福岡県久留米市旭町67番地
	看護学科	4年	110人	－人	440人	学士（看護学）	1.07	平成6年度	福岡県久留米市東櫛原町777番地1

既設大学等の状況	大学院比較文化研究科 前期博士課程 比較文化専攻	2	30	—	60	修士（文学） 修士（社会学） 修士（保健福祉学） 修士（法学） 修士（政治学） 修士（経済学） 修士（学術）	0.28	平成元年度	福岡県久留米市御井町 1635番地
	後期博士課程 比較文化専攻	3	12	—	36	博士（文学） 博士（社会学） 博士（保健福祉学） 博士（法学） 博士（政治学） 博士（経済学） 博士（商学） 博士（学術）	0.61	平成3年度	福岡県久留米市御井町 1635番地
	大学院心理学研究科 前期博士課程 臨床心理学専攻	2	15	—	30	修士（臨床心理学）	0.63	平成13年度	福岡県久留米市御井町 1635番地
	人間行動心理学専攻	2	5	—	10	修士（心理学）	0.10	平成13年度	福岡県久留米市御井町 1635番地
	後期博士課程 心理学専攻	3	5	—	15	博士（心理学）	0.13	平成13年度	福岡県久留米市御井町 1635番地
	大学院ビジネス研究科 修士課程 ビジネス専攻	2	12	—	24	修士（商学） 修士（経営学）	0.37	平成17年度	福岡県久留米市御井町 1635番地
	大学院医学研究科 修士課程 医科学専攻	2	8	—	16	修士（医科学）	0.75	平成13年度	福岡県久留米市旭町 67番地
	総合生命科学・ バイオ統計学専攻	2	8	—	16	修士（医科学）	0.93	平成31年度	福岡県久留米市旭町 67番地
	看護学専攻	2	15	—	30	修士（看護学）	1.30	平成28年度	福岡県久留米市旭町 67番地
	大学院医学研究科 博士課程 生理系専攻	4	4	—	16	博士（医学）	0.37	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地
	病理系専攻	4	3	—	12	博士（医学）	1.08	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地
	社会医学系専攻	4	8	—	32	博士（医学） 博士（医学バイオ統計学） 博士（看護学）	1.03	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地
	個別最適医療系専攻	4	20	—	80	博士（医学）	0.78	昭和30年度	福岡県久留米市旭町 67番地

附属施設の概要	<p>名称：久留米大学医学部附属病院  目的：本学学則に基づき医学の教育、研究及び診療を行うこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：昭和3年4月1日  規模等：土地 46,965.18㎡、建物 128,316.11㎡</p>	
	<p>名称：久留米大学医療センター  目的：本学学則に基づき医学の教育、研究及び診療を行うこと  所在地：福岡県久留米市国分町155-1  設置年月：平成6年7月1日  規模等：土地 48,887.06㎡、建物 22,548.10㎡</p>	
	<p>名称：情報教育センター  目的：本学の情報処理に関する教育・研究の発展に寄与すること  所在地：福岡県久留米市御井町1635番地  設置年月：昭和59年4月1日  規模等：建物 3,017.60㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：比較文化研究所  目的：新しい学際的統合を基本理念として、文化の構造と機能に焦点を当てた総合的比較文化研究を行うこと  所在地：福岡県久留米市御井町1635番地  設置年月：昭和62年2月27日  規模等：建物 147.2㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：分子生命科学研究所  目的：分子生命科学に関する学理及びその応用に関する研究を行うこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：昭和元年4月1日  規模等：建物 416.50㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：外国語教育研究所  目的：専門的、主体的な見地に立つて外国の言語文化及び外国語教育の在り方を研究し、その成果を教育に反映させ、もって本学の外国語教育の向上発展に資すること  所在地：福岡県久留米市御井町1635番地  設置年月：平成5年4月1日  規模等：建物 1433.60㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：先端癌治療研究センター  目的：基礎医学研究部門と臨床医学研究部門が一体となり、総合的に先端的な癌治療の研究・開発を行うこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：平成9年1月1日  規模等：建物 870.22㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：循環器病研究所  目的：循環器病、基礎医学研究部門と臨床医学研究部門が一体となり、総合的・先端的な循環器病の研究と治療開発を行うこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：平成10年6月26日  規模等：建物 145.50㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：高次脳疾患研究所  目的：認知神経科学部門、臨床分子生物学部門及び再生医学部門が一体となり、総合的・先端的な脳疾患の研究と治療開発を行うこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：平成14年4月1日  規模等：建物 141.80㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：バイオ統計センター  目的：学内の付置研究施設、医学部各講座、大学院等のもとより広く海外の研究機関及び国内産業界との連携を図り、バイオ統計学の有能な人材育成に資するため、教育研究を行うこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：平成15年10月1日  規模等：建物 349.68㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：ビジネス研究所  目的：マネジメント、ビジネス及びアカウンティングにかかわる理論と実証の研究により地域経済の発展及び広くビジネス社会化に資すること  所在地：福岡県久留米市御井町1635番地  設置年月：平成17年8月1日  規模等：建物 152.2㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
	<p>名称：皮膚細胞生物学研究所  目的：基礎皮膚科研究部門と臨床皮膚科部門が一体となり、総合的・先端的な皮膚細胞生物学の研究と診断法・治療法の開発を目指すこと  所在地：福岡県久留米市旭町67番地  設置年月：平成22年1月1日  規模等：建物 50.06㎡（土地は大学校地を含む）</p>	
<p>名称：経済社会研究所  目的：経済、社会及び環境に関する理論と実態の調査、研究を行い、他の研究機関との交流も深め、もって学術文化の発展に寄与するとともに、地域社会の発展に資すること  所在地：福岡県久留米市御井町1635番地  設置年月：平成22年4月1日  規模等：建物 83.4㎡（土地は大学校地を含む）</p>		

教育課程等の概要

(医学部医療検査学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
基礎科目	心理学	1前		1.5		○								兼1		
	久留米・筑後体験演習	1前		2			○							兼2	共同※講義	
	スポーツカルチャーを解剖する。	1前		1.5		○								兼3	オムニバス	
	観光英語	1前		1.5		○								兼1		
	文学	1後		1.5		○								兼1		
	歴史学	1後		1.5		○								兼1		
	社会学	1後		1.5		○								兼1		
	法学	1後		1.5		○								兼1		
	健康・スポーツ科学概論	1後		1.5		○								兼3	オムニバス	
	文化人類学	1後		1.5		○								兼1		
	哲学	1後		1.5		○								兼1		
	人文地理学	1後		1.5		○								兼1		
	いのちの倫理	1後		1.5		○								兼1		
	経済学概論	1後		1.5		○								兼1		
	社会心理学	1後		1.5		○								兼1		
	英語TOEFL	1後		1.5		○								兼1		
	英語(リーディング)	1前・1後	1			○								兼1		
	健康・スポーツ科学(実技)	1前・1後	1					○						兼1		
	キャリア入門	1前					○							兼3	オムニバス※講義	
	科学的思考の基礎	基礎医学ディベート	1前		1.5			○							兼3	共同
論理学		1後		1.5		○								兼1		
数学		1後		1.5		○								兼1		
文献調査法		1後		1.5		○								兼1	※実習	
学びの基本I		1前	2				○		8	4		3		兼4	オムニバス・共同※講義	
学びの基本II		1後	1			○								兼2	オムニバス※演習	
	小計(25科目)	—	6	30.5	0		—		8	4	0	3	0	兼35	—	
専門基礎科目	化学	1前	1			○			1					兼3	オムニバス	
	物理学	1前	1			○								兼2	オムニバス	
	生物学	1前	1			○								兼3	オムニバス	
	細菌学	1通	2			○								兼3	オムニバス	
	検査機器総論	1通	1			○			1			2		兼1	オムニバス・共同(一部)※演習	
	医用工学概論	1後	2			○			1						共同	
	医用工学概論実習	2後	1				○		2	1					オムニバス・共同(一部)	
	バイオサイエンス基礎	2後	2			○			1					兼11	オムニバス・共同(一部)	
	肉眼解剖学	1前	1			○								兼1		
	組織解剖学	1前	2				○		1			1		兼3	オムニバス・共同※講義	
	生理学	1通	2			○			1					兼2	オムニバス	
	生化学	1通	2			○								兼4	オムニバス・共同(一部)※実習	
	免疫学	1後	1			○								兼4	オムニバス	
	肉眼解剖学実習	2通	1				○		2					兼1	共同(一部)※講義	
	保健医療福祉とデータの取	公衆衛生学I	1後	1			○								兼3	オムニバス
		公衆衛生学II	2後	2			○								兼4	オムニバス
		関係法規	3前	1			○								兼1	
		マネジメントサイエンス基礎I	1後	1			○								兼1	
		マネジメントサイエンス基礎II	2通	1			○				1				兼4	オムニバス※演習
		保健医療情報学	2後	1			○				1				兼3	オムニバス※演習
統計学		1後	2			○			1					兼2	オムニバス・共同(一部)※演習	
データサイエンス基礎I		2通	2			○			1					兼2	オムニバス・共同(一部)※演習	
データサイエンス基礎II		3前	1			○			1					兼4	オムニバス・共同(一部)※演習	
	小計(23科目)	—	32	0	0		—		6	2	0	2	0	兼51	—	

病態・病理と疾病	病理学Ⅰ	1後	1			○			1													
	病理学Ⅱ	2前	1			○			1													
	病態生理学Ⅰ	1後	1			○			1													
	病態生理学Ⅱ	2通	1			○			2								オムニバス					
	血液学	2前	2			○				1							兼4	オムニバス				
	臨床医学総論Ⅰ	2通	2			○			1								兼13	オムニバス				
	臨床医学総論Ⅱ	3前	2			○			2	1							兼4	オムニバス				
	生理検査学Ⅱ	3通	2			○					1						兼11	オムニバス				
	臨床栄養学	3前	1			○			1									兼4	オムニバス			
	睡眠医学	3前	1			○					1							兼8	オムニバス・共同(一部)			
	臨床病理検討会	3後	1			○			1									※演習				
	薬理学	3後	1			○			1									兼3	オムニバス			
	臨床検査学の基本	臨床検査学・ヘルスサイエンス入門	1後	1			○			8	4		3									
		医学英語	2前	1			○			4	1											
		血液検査学	2後	2			○				1											
血液検査学実習		2後	2					○	1	1		1					兼2	オムニバス・共同(一部)				
病理検査学		2通	2			○			1			1										
病理検査学実習		2通	2					○	1			1										
一般検査学		3通	2			○			1	2		1										
一般検査学実習		3通	2					○	1	2		1					兼1	オムニバス・共同(一部)				
臨床化学検査学Ⅰ		1後	2			○			1	1		1										
臨床化学検査学Ⅱ		2前	2			○			1			1										
臨床化学検査学実習		2通	2					○	1	1		1					兼3	オムニバス・共同(一部)				
免疫学実習		1後	1					○		2								兼2	オムニバス・共同(一部)			
免疫検査学		3後	1			○			1	1		1						兼1	オムニバス・共同(一部)※実習			
RI検査学		3前	1					○	2									兼3	オムニバス・共同(一部)※講義			
遺伝子・染色体検査学		2前	1			○			1													
遺伝子・染色体検査学実習		2前	1					○	1	1								兼4	オムニバス・共同(一部)※講義			
輸血・移植検査学		3前	2			○			1	2									兼1	オムニバス・共同(一部)		
輸血・移植検査学実習		3前	1					○		1		1							兼1	オムニバス・共同(一部)		
微生物検査学実習Ⅰ		1後	1					○	1			1							兼3	オムニバス・共同(一部)		
微生物検査学	2通	3			○			2											兼1	オムニバス		
微生物検査学実習Ⅱ	2通	2					○	1				3							兼5	オムニバス・共同(一部)		
生理検査学Ⅰ	2通	3			○			1	1										兼8	オムニバス		
生理検査学実習	2通	2					○	5	1										兼6	オムニバス・共同(一部)※講義		
画像検査学Ⅰ	2通	2			○			1											兼4	オムニバス・共同(一部)※実習		
画像検査学Ⅱ	3後	1			○			1											兼5	オムニバス		
チーム医療と向けて臨床検査学の実践	検査管理総論	3前	2			○			3	2									兼2	オムニバス・共同(一部)		
	医療安全管理学	3前	1			○			1											兼3	オムニバス	
	医療安全・検体採取実習	3通	1					○	4	1		2							兼2	オムニバス・共同(一部)※講義		
	薬品管理学	1前	1			○						2								兼1	オムニバス・共同(一部)※実習	
	ゲノム医療・先端医学	3通	1			○			1											兼10	オムニバス	
	チーム医療演習	4前	1					○	2	1										兼2	オムニバス・共同(一部)	
	臨地実習前技能修得到達度評価	4前	2					○	2	3		3									オムニバス・共同(一部)※講義	
	臨地実習	4前	11					○	2	3		3									共同	
臨床検査医学特論	4後	4			○			5	3		3									兼16	オムニバス・共同(一部)	
応用選択コース	応用選択コース入門	2後	1			○			8	4		3								兼1	オムニバス・共同(一部)	
	バイオサイエンス応用	3通		6				○	1											兼8	共同	
	データサイエンス応用	3通		6				○	1											兼3	共同	
	マネジメントサイエンス応用Ⅰ	3前		4		○			1	1										兼1	オムニバス・共同(一部)※演習	
	マネジメントサイエンス応用Ⅱ	3前		1				○		1											兼2	共同
	マネジメントサイエンス応用Ⅲ	3後		2				○		1											兼1	共同
	臨床検査応用	3通		6				○	6	3		3									兼2	共同
卒業研究	4通		2				○	8	4		3									兼13	共同	
小計(54科目)	—	85	25	0		—		8	4	0	3	0							兼125	—		
合計(102科目)		—	123	55.5	0		—	8	4	0	3	0								兼184	—	
学位又は称号		学士(医療検査学)			学位又は学科の分野			保健衛生学														
卒業要件及び履修方法							授業期間等															
「必修科目」は123単位、「選択科目」は基礎科目で3単位以上、専門科目で6単位以上、合計132単位以上修得すること。但し、3年次前期のマネジメントサイエンス応用Ⅰ(4単位)を選択した場合は、マネジメントサイエンス応用Ⅱ(1単位)とマネジメントサイエンス応用Ⅲ(2単位)も併せて修得し、合計133単位以上修得することを卒業要件とする。							1学年の学期区分			2学期												
							1学期の授業期間			15週												
							1時限の授業時間			90分												

授 業 科 目 の 概 要			
(医学部医療検査学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
人間と生活・社会の理解 基礎科目	心理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、心理学という学問領域への導入を目的として、心理学の歴史と方法を総論的に学んだ後、感覚・知覚、学習・認知、発達、動機づけと情動、性格、社会といった心理学の各論について学修する。心理学学会連合が実施している心理学検定に対応できる知識の獲得を到達目標とする。	
	久留米・筑後体験演習	本授業の形態は演習とし、一部講義が含まれる。【概要】本授業はフィールドワークにより久留米・筑後地域の文化・経済・地域社会などについて知り、人間力を養い、その後の大学生活において自分が学ぶべきことを認識して主体的に学問に取り組む姿勢や技法を身に付けることを目標とする。地域の文化、福祉教育、産業商業経済、地域貢献に携わる体験先を訪問し、見学、活動、交流を体験する。体験演習前にマナー指導や体験先別に事前講義を行い、礼儀・知識を備えた上で臨む。現場体験を通して実情を知り、現場の抱える問題点とともに自己の課題にも気づき、それらに取組む姿勢をつくる。講義では文献調査やプレゼンテーション資料作成なども学ぶ。	共同 講義12時間 演習12時間
	スポーツカルチャーを解剖する。	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】スポーツは、「する」「みる」両方の意味において、魅力的な文化である。本授業では、スポーツの価値について、近接する様々な領域から捉えることによって、「する」以外の意味を社会・文化的視点から再考する。本授業は、現代社会におけるスポーツの役割、機能、社会・文化的価値に関する基本的な視点について理解することを目標とする。  (オムニバス方式/全13回)  (56 大橋 充典/5回) スポーツと新体制・遊戯性・競争性、スポーツとコーチング、スポーツとメディア、スポーツとジェンダー  (17 野田 耕/4回) 学校とスポーツ、子どもとスポーツ、スポーツとドーピング、スポーツの高度化  (55 行實 鉄平/4回) スポーツと政策、スポーツと福祉・医療、スポーツと産業、スポーツと地域コミュニティ	オムニバス方式
	観光英語	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】英語を公用語・準公用語とする国は50か国、その人口は約6億人にのぼる。本授業では、観光に関する英文読解とビデオ視聴によって、世界の国々の文化や社会、歴史を学ぶこと、およびこれらと比較して日本について考察することを目標とする。ビデオ教材では、ネイティブスピーカーの英語とノンネイティブスピーカーの英語を聞き取り、世界各国で話されている英語の違いについても認識する。ビデオ教材の聞き取りの他、授業の進め方としては、各チャプターの長文を前もって読み、設問も解答しておく。授業内でその答え合わせをしながら、長文の詳細を確認する。各チャプターのディスカッションピックについてはグループディスカッションも行う。	
	文学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、多くの文学作品に触れ、作品が書かれた時代背景や様々な手法を学びながら読解力を深めるとともに、他の人の読解や感じ方を知ることで、幅広い共感力を身に付ける。それにより文学の持つ力を知り、物語を楽しむ力を養う。また、その楽しさを誰かに伝えたり、語り合う表現力を学ぶ。予習として、配付される次回の講義の教材(作品)を読んで授業に臨む。文学作品の読み方に正解があるわけではないので、読む楽しさを体験、獲得する。授業の前半は映像なども使いながら、時代背景を学ぶ。後半は作品の読解から、学生同士の意見を聞き、理解を深めるグループワークを予定している。	
	歴史学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、筑後地域を中心とした北部九州地方の歴史・文化について、地域の文化財を素材に学習する。これらの地域の歴史・文化を検証することにより、地域を取り巻く環境を深く理解する。講義を参考にして、筑前地域との比較を行いつつ、筑後地域を中心とした歴史・文化の背景を認識するとともに、久留米(筑後)地域の歴史を時系列で理解する。さらに、今後の学生生活のなかで、同地域の文化財に興味関心がもてるような知識と教養を身につける。	
	社会学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、社会学の方法・諸理論を学びながら、今後携わっていく医療の諸問題を考える上での視点を養うことを目的とする。特に、現在の社会病理問題を中心に、社会全体とその中の人間関係について考察することにより、急激に変化する世界の中での、社会、個人、医療の現状と展望をとらえるとともに、広い視野から社会を見て、より良い人間関係を築き、社会貢献に参画する下地を作る。	
	法学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、教養としての法学の基礎を学び、社会生活上のルールや規範の基礎となる考え方を身につけることを目標とする。指定テキストに基づいて、憲法・民法・刑法という3つの法律の考え方の基礎を学び、社会生活の中で、法がどのような役割を果たしているのかについて考察する。	
	健康・スポーツ科学概論	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】日常的な身体活動(運動)は、単に体力レベルの向上にとどまらず、「からだ」と「こころ」に対し様々な好ましい影響をもたらす。疾病の予防・治療に繋がることが数多くの研究で明らかになっている。高齢社会を迎えている我が国において、健康を維持し、生涯をとおして自立した生きがいのある生活を実現するためには積極的な身体活動実践の必要性が認識されている。安静時の生理機能のみでなく、運動に伴う身体の生理・生化学的応答や運動の心身に及ぼす効果や影響の学修は、医学を学ぶ場合の必要不可欠な基礎知識であると考えられる。そこで、本授業では、運動時の生理的応答、運動が心身に及ぼす効果・影響ならびに運動実践上のスポーツ医学的アプローチについて学ぶ。  (オムニバス方式/全15回)  (19 石田 孝志/6回) 運動とからだ(体力、身体活動、エネルギー消費量、運動と身体組成、筋肉の構造・機能と運動、筋線維の種類と運動能力の関係、筋肥大・筋線維の動員と筋力、筋収縮様式、運動時のエネルギー供給系、有酸素運動)  (88 奥野 真由/2回) 健康維持のための食生活、運動時の栄養補給  (18 吉田 典子/6回) 身体活動の効果、疾病の予防や治療としての運動療法の意義、疾病を有する場合の運動療法(メディカルチェック、運動処方、事故防止)、運動と内科的スポーツ障害(熱中症、心臓突然死、オーバートレーニング、女性アスリートの三主徴、運動性貧血、摂食障害、運動性無月経、疲労骨折)	オムニバス方式



人間と生活・社会の理解	文化人類学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】文化人類学は「人類とは何か」について、その文化の多様性と共通点を通して探究する学問である。特にグローバリゼーション・グローカリゼーションが進む現代の我々は、我々とは異なる文化を持つ人々と日常的に接する状況となっており、文化の違いについて、分断や衝突ではなくいかに共生する方向で折り合っていくか、ということが一人一人に求められている。本授業では、「現代社会においていかに異文化理解と多文化共生を図っていくか」というテーマについて、基本的視座と理論を理解し、具体的な行動に至るための人類学的思考様式を修得することを目標とする。	
	哲学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】長い歴史を持つ「哲学」の中でも、特に古くから議論されているのが私達の「知識」をめぐる「認識論」である。本授業では、特に20世紀中頃以降の議論、すなわち内在主義と外在主義の対立を中心とした「現代」の議論を扱う。内在主義と外在主義がどのように対立しているのかを整理するとともに、どちらの立場を指示するか、自分なりに考える姿勢を身に付けることを目標とする。	
	人文地理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、人文地理学の基礎的な概念を理解し、それらに基づいて地表の多様な地域における環境-人間関係の探求と、地理学的思考を応用した社会問題へのアプローチについて学修する。具体的には、①空間、地域、環境、スケールなど人文地理学の基礎的な概念を踏まえて地表の諸現象を理解し、②文化地理学から派生した文化生態学、政治生態学の概要と応用性を学んだ後、ジェンダー（男性、女性、マイノリティ）や災害における地理学的視点など国内外のさまざまな地域における人々の営みに関心を持ち、自らがテーマを立てて考察する。	
	いのちの倫理	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、いのちが問題となる局面において、複雑な状況を理解し、医療者として「人のいのち」にどう向き合うべきかという判断力を養うことを目的とする。そのために、戦争、大災害、先端医療技術によって生じている様々な倫理的問題の基礎的な理解を身につけ、問題を吟味する。教材と授業を通じて考察した内容を論述形式のレポートで提出する。	
	経済学概論	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、現代経済学の基礎理論としてのミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を理解することを目標として、日本の経済政策の在り方について学ぶ。経済学的な考え方を理解するための基盤を作りから始め、現代経済学の基礎理論としての初歩的なミクロ経済学とマクロ経済学について学ぶ。経済学ではどのように世の中の出来事を捉えるのか、データを用いた具体例によって、経済学の概念の理解を深める。	
	社会心理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、こころの働きをめぐる社会心理学的な見方・考え方を理解し、実生活のなかで実践できるようになることを目的とする。教員との対話形式の授業により、人々が対人関係、集団、文化・環境から影響を受ける一方でそれらへも影響を与えながら生活していることについて、社会心理学の視点から学ぶ。	
	英語TOEFL	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、英語検定試験TOEFL-ITPに対応するために必要な英文法や英単語、英熟語、言い回し、リスニングや長文読解を指定テキストを用いて学修し、基礎的な英語力を養う。	
	英語（リーディング）	本授業の形態は講義とし、医療検査学科単独で開講する。【概要】大学入学後から社会に出た後も、英語で書かれた専門的な文献や機器の取扱説明書などから情報を得る必要がある。本授業では、基本的な英文の読解・表現の演習を通じて、高校までに修得した英語の運用能力のうち、主にリーディングのスキルの向上を図り、英語理解のための基礎的な知識を修得する。	
	健康・スポーツ科学（実技）	本授業は学科単独で開講するスポーツ実技である。【概要】適度な身体活動（スポーツ）を継続することは、健康増進、体力の維持向上、精神的な充足、他者との連携構築など、QOL（Quality of life）の向上に繋がる様々なメリットをもたらす。本授業では、球技その他のレクリエーション・スポーツを通じて、生涯スポーツの意義を理解し、健康的な生活を維持するための基礎づくり、コミュニケーション能力を養うことを目的とする。これまでスポーツが苦手だった者も含め、本授業を通じて運動や仲間と連携することの楽しさを感じ、スポーツによる自身の健康・体力を維持向上の必要性を認識することにより、大学生活およびその後のライフステージに応じた運動習慣を積極的に取り入れるきっかけとする。	
	キャリア入門	本授業は、学科単独で開講する初年次教育科目である。授業形態は演習とし、一部講義も含まれる。【概要】大学生になると、様々な場面において自ら考え行動すること、すなわち主体性が必要となる。本授業では、各学生がかけがえのない大学生活を主体的に過ごせるよう、入学の時点において将来の自分を考えつつ、大学生生活の目標と行動計画を立てる。また、若手臨床検査技師を講師に迎え、臨床検査技師としての活躍の場が様々であることを学ぶとともに、学生時代や社会人となってからの経験や思いなどを聴くことで、より具体的な目標や成長意欲を高めるきっかけとする。  (オムニバス方式/全8回)  (59 酒井 佳世/6回) ガイダンス、大学生としてのマナー・コミュニケーション、卒業後のキャリア、社会人基礎力  (159 園師 琴音/1回) 大学病院における治験コーディネーターとして  (160 徳永 翔/1回) 地域医療支援病院の臨床検査部門に勤務して	オムニバス方式 講義8時間 演習8時間
科学的思考の基礎	基礎医学ディベート	本授業の形態は演習とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】問題解決力は、人生の様々な場面で必ず必要となる能力である。特に医学に関する様々な問題は一朝一夕には結論を出せないものが多く、判断や選択を迫られた場面で、多面的に物事を考え、論理的に結論を導き出す能力が求められる。本授業では、数名の小グループにわかれ、医学に関する社会問題やトピックについてディベート形式の討論を行うことにより、賛否どちらの立場からでも物事を考えられる能力を養成する。さらに、問題点を発見し、分析し、解決し、第三者にプレゼンテーションするといった実践的な思考リテラシーを養う。到達目標は、①様々なテーマにおいて問題点を抽出できる、②ディベートに必要な情報を収集できる、③論理的な立論と説得力のあるプレゼンテーションができる、④的確な反論ができる、⑤討論を通じて諸問題を解決することができることとし、1つの課題につき3週間かけて学習を行う。	共同
	論理学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】本授業では、論理的に正しい推論を行えるようになるために、指定テキストを用いて論理学で扱う基本的な概念（命題と真偽、推論と演繹）を学んだ後、命題論理、述語論理の基礎を理解し、実際に自然演繹を用いた証明を行う。本授業により、日常で使用する自然言語を論理式に変換できるようになること、与えられた推論が論理的に正しいかを評価できるようになることも、到達目標とする。	
	数学	本授業の形態は講義とし、医学科1年生と合同で行う。【概要】数学および数理的考え方は、研究や論文を読み解くのに必要である。本授業では、データ解析や数学モデル等の基礎となる、大学での数学を理解し使えるようになること、及び数理的考え方を身につけ、理論的思考力を養うことを目的とする。数学の具体的な応用例や、数学の分野間の関連についても学ぶ。	

科学的思考の基礎 基礎科目	文献調査法	<p>本授業は医学科1年生と合同で行う。授業形態は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】本授業では、さまざまな文献や資料を集めるための基礎的な知識・方法について学び、レポートや論文の作成に必要な文献調査の知識と技能を修得する。具体的には、まず研究者倫理（著作権法）について学んだ後、情報の流れ、図書館、図書館の資料構成について学ぶ。次に、図書・雑誌・新聞・ウェブそれぞれの資料の特徴について学ぶ。その後、データベースによる検索を学び、最終的なまとめを行う。本講義は単にPC上の検索操作だけでなく、図書館に行き、実際に資料を探すことも行い、文献調査の各手法について実践的に習得する。</p>	講義18時間 実習10時間
	学びの基本 I	<p>本授業は、学科単独で開講する初年次教育科目である。授業形態は演習とし、一部講義も含まれる。【概要】本授業では、①大学生にふさわしい生活習慣や学修の方法について学び、4年間の学生生活で実践できるようになること、②入学後にあらためて医療従事者を目指す意欲を自覚することを目標とする。在学中に本学科が養成しようとする『メディカルサイエンスに精通し多様で高度な医療のニーズに対応できる』臨床検査技師になるために必要な知識・技能・態度を獲得するには、個々の学生の能動的な学修だけでなく、学生同士が声をかけ合い、ともに学び、教え合うような取り組み方が求められる。そのため授業の前半は、目標を共有する仲間と協力しながら自分達の課題を見つけ、解決に取り組めるような『学びの場』を作る。授業の後半には、医学科1年生との合同授業を行い、役割が異なるが医療従事者として同じ目標を持つ仲間とともに学ぶ機会を持ち、多職種連携教育の下地をつくる。</p> <p>【授業の進め方】 授業の進行は、文学部心理学科、医療検査学科、医学科の教員が順に担当するオムニバス形式とする。4～6名の小グループを形成するため、医療検査学科の専任教員が『ファシリテーター』として小グループの見守り、助言、学生評価を担当する。以下の（オムニバス方式/回数）内には、全体進行を担当する教員名のみを記載する。ファシリテーターが参加する授業は、※にて注釈をつける。</p> <p>（オムニバス方式/全18回）</p> <p>（22 安永 悟、109 石田 有紀/10回）（共同） あいさつ・学びの場づくり、授業の受け方、ノートの取り方、大学の過ごし方、資料や文献の要約の仕方、深い思考、批判的思考、レポートの書き方、資料の整理法などについて、協同学習の技法を用いて体験的に学ばせながら概説する。特に、話し合い学習法（Learning through discussion: LTD）を実践できるよう指導する。なお、資料の要約や関連付けのトレーニングを行うための主な教材は、著者や登場人物、読み手自身の心情なども、取扱いの対象となる。※ファシリテーター（医療検査学科教員）も参加する。</p> <p>（3 武谷 三恵、④ 伴 匡人/2回）（共同） 心理学科教員による前半10回までの学修を振り返り、臨床検査学やヘルスサイエンス分野の学修、研究で実践することの多い文章の読解とレポートの書き方について概説し、LTDの手法を使いながら体験的に学ばせる。※ファシリテーター（医療検査学科教員）も参加する。</p> <p>（3 武谷 三恵、④ 伴 匡人、62 小松 誠和/1回）（共同） ここまで医療検査学科の学生だけで授業を行ってきたが、次回から医学科1年生との合同授業となるため、これを円滑に行うためのオリエンテーションを協同学習方式で実施する。</p> <p>（23 渡部 功一、62 小松 誠和、109 石田 有紀、3 武谷 三恵/4回）（共同） 協同学習方式による医学科1年生との合同授業を指導する。①両学科の学生が医療従事者を志す者同士としての仲間づくりを行い、②多様な専門家が協力し合うことで患者中心の医療が成り立つことを、初学者なりに意識できる機会を作る。※ファシリテーター（医療検査学科教員）も参加する。</p> <p>（3 武谷 三恵、④ 伴 匡人、62 小松 誠和/1回）（共同） 合同授業を含む本科目の振り返りを行い、今後の授業内外での実践について目を向けさせる。</p> <p>【医療検査学科の専任教員の関わり方】 医療検査学科の専任教員は、16回の授業におけるファシリテーターを担当する。上記の進行も含め、年度毎の担当者とは担当回数は、以下のとおりである。 令和6年度：② 有永 照子、③ 真田 咲子、9 八木 朝子、11 田代 恭子、12 小原 仁、13 吉野 千代、15 福満 千容/16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人/18回（進行とファシリテーター） 令和7年度：② 有永 照子、6 真茅 孝志、7 室谷 健太、10 関 律子、12 小原 仁、⑤ 糸山 貴子/16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人/18回（進行とファシリテーター） 令和8年度：① 西 昭徳、② 有永 照子、5 棚町 千代子、6 真茅 孝志、13 吉野 千代、15 福満 千容/16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人/18回（進行とファシリテーター） 令和9年度：① 西 昭徳、② 有永 照子、7 室谷 健太、10 関 律子、11 田代 恭子、⑤ 糸山 貴子/16回（ファシリテーターのみ）、3 武谷 三恵、④ 伴 匡人/18回（進行とファシリテーター）</p>	オムニバス方式・共同 講義12時間 演習24時間
	学びの基本 II	<p>本授業は、学科単独で開講する初年次教育科目である。授業形態は演習とし、一部講義も含まれる。【概要】本授業では「学びの基本 I」で修得した協同学習の理論と技法を活用する。授業の前半では、LTD話し合い学習法に依拠した反転授業を行い、学力の向上をめざすことを目的とし、教育活動を支える基本的な心理学理論とその活用方法について学ぶ。授業の後半では、人間の心の動きに関する知識修得を目的とし、様々な演習を通して自分自身を振り返る作業を協同で行っていく。これらの学習内容を自己と関連づけることで、各自の大学生活の質を高めることを目指す。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（22 安永 悟/7回） 学習や認知などに関する心理学の基礎的な理論を手がかりに、人間行動の獲得過程や修正方法について検討する。また、先行きが見通せない不確定な状態における心の動きや行動パターンについても吟味する。</p> <p>（109 石田 有紀/8回） 「こころ」と「からだ」と「社会」という3つの大きな枠組みの中で、健康-病気の結果に及ぼす生物心理社会的要因の複雑な影響について学ぶとともに、ストレスマネジメント行動変容を実践する。</p>	オムニバス方式 講義20時間 演習10時間

生命科学・検査原理の基礎 専門基礎科目	化学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】化学は物質の構造や性質、物質間の反応を対象とする学問であることから、臨床検査に利用される化学反応、生命現象や疾病を分子レベルで理解する上で必要な基礎知識となる。本科目では、原子の構造、化学結合と物質の状態、反応性といった理論化学、化合物に関わる無機化学や有機化学を学んでいく。さらに生命現象に関わるタンパク質・核酸・脂質・糖などの生体物質を学び、「生化学」「臨床化学検査学」につながる基礎知識を修得する。</p>	
	物理学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、物理学の原理・法則の基礎を学び、これらが身の回りの自然現象や生命現象、検査機器の原理とどう関連するかを理解する。力学・連続体力学・電磁気学・原子と放射線・熱力学・波動について学び、特に遠心分離器、超音波、MRI、分光光度法、顕微鏡、放射線やX線などの検査機器の原理に物理の法則がどのように活かされているかを学修することにより、機器原理の理解に必要な基礎知識を修得する。また、有効数字やグラフなど、検査結果のデータ処理に必要な素養を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(92 大久保 博/6回) 物体の運動(位置・速度・加速度、ニュートンの運動の法則、力、運動量、仕事とエネルギー、剛体の力学と角運動量、重心、検査機器の基礎原理(質量分析器、蛍光X線分析、MRI、有効数字とグラフ、片対数グラフ)</p> <p>(91 國友 正信/7回) 変形する物体の力学(弾性体力学、流体力学)、電気(静電気、定常電流、電流と磁場、電磁誘導、交流回路)、波動(波動を表す物理量、波動の性質)、音(音の性質、ドップラー効果、超音波の性質)、光(光の性質、レンズと顕微鏡、光の吸収と分光光度法)</p> <p>(24 長澤 真樹子/2回) 熱と温度(熱とは、物質の三態、熱と仕事) 原子と放射線(原子と光、放射線)</p>	オムニバス方式
	生物学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】生物に共通する特徴には、細胞膜により外界との領域を区別すること、エネルギー代謝を行うこと、自己複製できることがある。本授業では、生物がもつ様々な生命現象のしくみを学ぶことにより、人体の構造・機能、臨床検査や医学研究を支える生命科学の原理を理解するための基礎を学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(63 大沼 雅明/9回) 生命を支える物質(糖質、脂質、タンパク質、核酸、無機塩類)、細胞の増殖・生殖細胞の形成(細胞周期、体細胞分裂と減数分裂)、遺伝情報と形質の発現(DNA、遺伝子)、遺伝(メンデルの法則、染色体異常とヒトの遺伝子疾患)、発生・分化(生殖と受精、器官形成、ヒトの初期発生)、生物の進化(化学進化、生命の誕生、生物の系統進化)、生物と環境(生態系、物質の循環、人間の活動と地球環境)</p> <p>(93 森部 弘樹/6回) 生命の基本単位(細胞の構造、原核生物と真核生物、細胞の機能、細胞内小器官と細胞骨格)、生命活動とエネルギー(代謝、酵素、呼吸、光合成)、生物の体の構造と機能(組織、器官、細胞内コミュニケーション、内部環境の調節)</p>	オムニバス方式
	細菌学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、病原微生物(細菌と真菌)の感染症の検査において適切な対応を行えるように、病原微生物に関する正しい知識を身に付けることを目標とする。そのために、個々の微生物の性状・病原性および感染症の検査・治療・予防に加えて、微生物とヒト・環境との相互関係や生体防御機構などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(94 山本 武司/8回) 微生物の分類、細菌の形態と構造、観察法と染色法、細菌の代謝と発育、培養法と同定法、正常細菌叢、感染と関連法規、感染の概念、各種感染症、バイオセーフティ、感染症法、グラム陰性球菌・球桿菌(ナイセリア、モラクセラ、アシネトバクター)、グラム陰性通性嫌気性桿菌(エルシニア、クレブシエラ、プロテウス、セラチアなど)、グラム陽性、好気性桿菌(有芽胞菌:バシラス、無芽胞菌:リステリア、コリネバクテリウム)、その他の細菌(スピロヘータ、レプトスピラ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマ)、真菌</p> <p>(110 奥野 未来/6回) 細菌の遺伝、遺伝子診断法、化学療法(概念と基本、抗菌薬の種類と特徴、感受性試験、薬剤耐性)、感染予防(ワクチン)、グラム陽性球菌(スタフィロコッカス、マイクロコッカス)、グラム陰性通性嫌気性桿菌、グラム陰性好気性らせん菌(ビブリオ、バクテリウム、ヘモフィルス、カンピロバクター、ヘリコバクター)、グラム陽性、抗酸性桿菌(マイコバクテリウム、ノカルジア)、</p> <p>(25 小椋 義俊/6回) 滅菌と消毒、病原性と生体防御(細菌の病原性、生体防御機構)、グラム陽性球菌(ストレプトコッカス、エンテロコッカス)、グラム陰性通性嫌気性桿菌(エシェリキア、シゲラ、サルモネラ)、グラム陰性、好気性桿菌(シュールドモナス、レジオネラ、ボルデテラ、ブルセラ、フランシセラ)、嫌気性菌(グラム陽性の無芽胞球菌と桿菌、グラム陰性の無芽胞球菌と桿菌、グラム陽性の有芽胞桿菌:クロストリジウム)</p>	オムニバス方式

生命科学・検査原理の基礎 専門基礎科目	検査機器総論	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、顕微鏡装置など広く臨床検査で使用する『共通検査機器』について、講義とともに演習を交えて、その原理・構造、ならびに正しい取り扱い方法を学ぶ。特に演習で取り扱う機器については、原理・構造、取り扱い上の注意点を説明できるとともに、基本的な操作を実施できるようになることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全12回)</p> <p>(6 真茅 孝志/4回) 講義にて、総論(用手法と検査機器、ならびに検査機器の取り扱い上の注意)、共通検査機器(光学顕微鏡、化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、攪拌装置、恒温装置、保冷装置、滅菌装置、測光装置、電気化学装置、純水製造装置、遺伝子検査機器)の原理・構造を概説する。</p> <p>(15 福満 千容、6 真茅 孝志/4回) (共同) 演習にて、光学顕微鏡の原理・構造、操作・取り扱い方法について解説し、学生の操作を指導する。</p> <p>(13 吉野 千代、6 真茅 孝志/2回) (共同) 演習にて、化学容量器、秤量装置、遠心分離装置、測光装置(分光光度計)、電気化学装置(pHメータ)の操作・取り扱いについて解説し、学生の操作を指導する。</p> <p>(26 太田 啓介/2回) 講義にて、共通検査機器のうち、電子顕微鏡の原理・構造、操作・取り扱い方法について概説する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義12時間 演習12時間
	医用工学概論	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】医療では様々な医用電気機器が用いられることから、適切な使用と安全管理のためには理工学的な知識も必要となる。臨床検査領域においては、超音波や光などの各種エネルギーを生体に作用させる場合があるため、本授業では、まず、各種エネルギーに対する生体反応(生体物性)を学修する。引き続き、医用電気機器の原理・構造を理解するうえで必要となる、電気・電子工学の基本事項を学ぶ。授業の後半には、医用電気機器を安全に使用するための知識として、電撃、医用電気機器の安全基準、病院電気設備の安全基準、電磁波障害について、JIS(日本産業規格)の基準を交えて学ぶ。</p>	
	医用工学概論実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では、各種電子機器と実験装置を用いた実習により、生体情報を収集する医用電気機器の基礎となる電気・電子工学の知識について、理解を深める。まずは各種電子機器(マルチメータ、オシロスコープ、発振器、電源装置)と各種素子(受動素子、能動素子)の取り扱い方を学ぶ。続いて①抵抗の直列・並列回路の特性、時定数などの電気回路の基礎、②医用電子回路に用いられるCRフィルタ回路と演算増幅器の特性、③センサ(サーミスタ)を用いた計測法、および心電計の特性などの生体情報を収集する機器の原理について学修する。後半では、医用電気機器の保守管理に必要な技術・知識の修得のため、漏れ電流の測定とともに、JIS T 0601-1で規定されている漏れ電流の測定用器具(Measuring device: MD)の特性に関する実習を行う。</p> <p>(共同/全15回における担当者の役割)</p> <p>(6 真茅 孝志/15回) すべての回における統括、解説と指導を行う。</p> <p>(3 武谷 三恵/9回) 前半の回にて、各班の実習が円滑に進むよう、統括者と連携して指導する。テーマは以下のとおり: 各種電子機器と各種素子の取扱い、電気回路の基礎、医用電子回路に用いられるCRフィルタ回路と演算増幅器の特性</p> <p>(9 八木 朝子/6回) 後半の回にて、各班の実習が円滑に進むよう、統括者と連携して指導する。テーマは以下のとおり: 生体情報を収集する機器の原理、電気的安全対策(医用電気機器の漏れ電流測定、MDの特性)</p>	共同
	バイオサイエンス基礎	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】バイオサイエンスの発展により、様々な生命現象の分子レベルでの理解が進み、それらの知見に基づいた診断や治療法の開発が進められている。授業ではバイオサイエンスに関する基礎理論の詳細を修得し、最先端研究の背景や過程を学ぶことで、様々な生理現象の分子メカニズムを理解することを目指す。授業の後半では、モデル動物の操作・解析技術、医療・診断技術の原理を学び、基礎研究がどのように応用されているかを知る。さらに法學・社会学・経済学的な視点から、基礎研究から得られた知見や新しい技術の適切な在り方、バイオサイエンスの発展が社会に与える影響を学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(4 伴 匡人/3回) タンパク質の立体構造形成、ミトコンドリア形態制御の分子メカニズム、授業のまとめ</p> <p>(27 齋藤 成昭/1回) 栄養飢餓に対する細胞応答</p> <p>(95 豊田 雄介/1回) 糖代謝を調節するシグナル経路</p> <p>(113 石川 健/1回) CRISPR-Casを用いた転写制御技術</p> <p>(67 佐藤 貴弘/1回) 飢餓を生き抜くサイエンス</p> <p>(96 佐野 浩子/1回) ショウジョウバエを用いたヘルスバイオサイエンス研究</p> <p>(114 椎村 祐樹/1回) 構造生物学の創薬応用</p> <p>(66 塩澤 誠司、112 坂井 勇介/3回) (共同) 動物実験の意義、倫理と関連法規、実験動物の生物学的特性、微生物コントロール、実験動物の育種・繁殖、モデル動物の作出法</p> <p>(111 三田尾 昶/1回) 生殖補助医療の基礎と臨床</p> <p>(64 在澤 英俊/1回) バイオサイエンスの発展と法問題</p> <p>(65 富吉 満之/1回) バイオサイエンスの発展が社会に及ぼす影響</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
人体の構造	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、脈管系、神経系、骨格系、筋系の4系統の構造を、肉眼解剖学および組織学的に学修し、各系統を構成する細胞・組織・器官の機能にも関連つけて学ぶ。各種画像検査や生理検査、および採血の実施とデータ評価を行うために必要な基礎知識と自己学修能力を身に付けることを目標とする。</p>		

<p style="text-align: center;">人体の構造と機能 専門基礎科目</p>	<p style="text-align: center;">組織解剖学</p>	<p>本授業の形態は実習とし、各授業の冒頭には講義も行う。【概要】様々な機能を持つ臓器は、その役割を果たすため、それぞれ独特な構造・細胞の配列を持つ組織で構成されている。本実習では、この組織を顕微鏡を使って実際に観察し、理解することで、正常な人体の機能と構成の理解を深めることを目標とする。具体的には、組織の種類別に特徴的な細胞構築とそれにより発揮される機能を学び、人体を構成する器官・系統の基礎知識を身につける。また、観察した事象を「所見」として記載する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(26 太田 啓介、③ 真田 咲子、15 福満 千容/10回) (共同) 細胞と組織総論、上皮組織の観察、支持組織の観察、筋組織の観察、呼吸器系の基礎と組織観察、内耳と皮膚の基礎と組織観察について概説し、実習指導を行う。</p> <p>(116 中村 悠、③ 真田 咲子、15 福満 千容/16回) (共同) 神経組織の観察、循環器系・免疫系・消化器系・泌尿器系・内分泌系の基礎と組織観察、眼の構造と組織観察について概説し、実習指導を行う。</p> <p>(117 井上 実紀、③ 真田 咲子、15 福満 千容/4回) (共同) 男性生殖器・女性生殖器の基礎と組織観察について概説し、実習指導を行う。</p>	<p>オムニバス方式・共同 講義15時間 実習45時間</p>
	<p style="text-align: center;">生理学</p>	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人の正常な身体の各部位の機能を理解するための基本的な知識と考え方を、分子・細胞レベルから組織・器官(臓器)・器官間連関を保つ個体レベルで学ぶ。生体における恒常性、生命維持に必要な植物機能、個体が能動的に活動するのに必要な動物機能、神経系と内分泌系による器官間の機能調節機構を学ぶことにより、生理検査や生化学検査のデータ解釈や疾病・病態を理解するための基礎を身に付けることを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全28回)</p> <p>(3 武谷 三恵/11回) 生理学総論、体液区分と恒常性、細胞膜の構成と輸送、呼吸器系、体液pHの調節、泌尿器系、消化器系、前期のまとめ、後期のまとめ</p> <p>(28 鷹野 誠/9回) 神経系、骨格筋、心臓・循環系</p> <p>(68 菊池 清志/8回) 血液、内分泌系</p>	<p>オムニバス方式</p>
	<p style="text-align: center;">生化学</p>	<p>本授業は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】生化学は生命現象を分子レベルで理解しようとする学問である。化学で学んだ知識をもとに、生体を構成する様々な物質の構造や性質を理解し、それらの生体物質の化学反応によって生体の恒常性が維持され、生命が成り立っている仕組みを理解する。臨床検査の結果がどのような代謝や遺伝子の異常に由来し、どのような疾患に関連するのかを考察する上で必要とされる、生化学の基礎的知識を修得する。①生命の維持や活動に必要な生体物質の構造と性質を説明できる。②生体内での化学反応を触媒する酵素の性質と反応速度論について説明できる。③栄養素の消化吸収、代謝とその調節、代謝異常による疾患について説明できる。④遺伝情報とその発現、遺伝子異常による疾患について説明できる。⑤物質の代謝や輸送に基づいて、各器官の機能を説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(70 杉島 正一/9回) 細胞の構造と機能、生体物質の構造と性質(糖質、脂質、タンパク質)、酵素、遺伝的生化学、細胞の増殖制御、栄養生化学(無機質、ビタミン)</p> <p>(69 佐藤 秀明/11回) 生体物質の代謝(代謝総論、糖質の代謝、クエン酸回路とATP合成、脂質の代謝、タンパク質・アミノ酸の代謝、ヌクレオチド・核酸の化学と代謝、代謝の調節と統合、生体色素ヘムの代謝)</p> <p>(118 塚口 舞/5回) ホルモンとシグナル伝達、器官の生化学(血液、肺、肝臓、消化管、腎臓と体液調節)</p> <p>(69 佐藤 秀明、70 杉島 正一、97 原田 二郎、118 塚口 舞/4回) (共同) 酵素実験①肝臓における尿素サイクル、酵素実験②酵素反応機構</p> <p>(69 佐藤 秀明、70 杉島 正一/1回) (共同) 酵素実験①と②のまとめと解説</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部) 講義50時間 実習10時間</p>
	<p style="text-align: center;">免疫学</p>	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、自己と非自己(ウイルスや細菌、広義にはがんなど)を識別し、非自己を排除する生体システムである免疫系のしくみについて、免疫担当細胞や免疫関連分子の種類と役割を中心に学ぶ。免疫検査学、輸血・移植検査学などの臨床検査学、および感染症、アレルギー、膠原病、免疫不全などの疾患と病態を理解するための基礎知識を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(29 溝口 充志/1回) 免疫系全体の概要</p> <p>(30 溝口 恵美子/1回) 自然免疫の総論</p> <p>(119 岡田 季之/1回) 獲得免疫の総論</p> <p>(62 小松 誠和/5回) 自然免疫の各論(免疫担当細胞と免疫関連分子)、獲得免疫の各論(免疫担当細胞と免疫関連分子)、獲得免疫の各論(抗原処理と抗原提示)、獲得免疫の各論(抗原認識とリンパ球の活性化)、能動免疫と受動免疫、免疫寛容</p>	<p>オムニバス方式</p>

人体の構造と機能	肉眼解剖学実習	<p>本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】解剖見学実習を通して、第1学年で学んだ人体の構造と機能（解剖学、生理学）の知識を統合し、各臓器の三次元的な配置や位置関係を理解する。前期は医学科学生の実習に参加して小グループに分かれ、体表解剖と皮下の筋層、末梢神経、血管の走行とこれより深部の胸腹部の構造、内臓の位置関係を観察しながら学ぶ。後期は看護学科学生と合同で、既に剖出された臓器と模型を使いながら、各臓器と舌頭咽喉頭部等の詳細な構造を観察する。本実習により、検体採取や画像検査をはじめとする各種臨床検査の方法や所見の具体的な理解を深めることを目標とする。また、医学科、看護学科の学生とともに生命の尊厳、医の倫理について考察を深め、互いの意見を交換しながら学ぶことで他職種との役割や視点の違いについても学ぶ。</p> <p>(共同/全15回における担当者の役割)</p> <p>(31 嵯峨 堅/15回) (うち8回は共同) 全講義における概説と、全実習における統括と指導を担当する。</p> <p>(3 真田 咲子、3 武谷 三恵/8回) (共同) 解剖見学実習において、各班の実習が円滑に進むよう、統括者と連携して指導する。人体各部の構造と機能の理解、各種臨床検査との関連づけ、生命の尊厳の認識、学生同士のコミュニケーションなどが促進するよう、各班と学生を見守り、適宜、助言や指導を行う。</p>	共同(一部) 講義6時間 実習24時間
	公衆衛生学 I	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人々の健康を脅かす原因を社会や環境との関わりの中に見だし、適切に対処できる医療従事者を指すため、公衆衛生学の基礎を学ぶ。健康とは何かを理解し、疾病予防の考え方を身に付ける。また、疾病の発症に関連する様々な社会的要因や環境要因について整理するとともに、産業保健における疾病予防についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全12回)</p> <p>(98 森 美穂子/4回) 公衆衛生と健康、栄養と食品衛生(栄養保健、食品安全と食品衛生)、精神保健</p> <p>(120 増田 宏/4回) 環境保健(概論、健康被害、因子分析、リスクアセスメント)</p> <p>(71 森松 嘉孝/4回) 産業保健(労働災害と業務上疾病、健康診断、交代制勤務とTHP、産業疲労、過重労働)</p>	オムニバス方式
専門基礎科目 保健医療福祉とデータの取り扱い	公衆衛生学 II	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】一人一人が健康に生きていくためには、地域社会を構成する集団の疾病予防と健康増進を図る必要がある。本授業では、集団における健康に関する諸問題を把握・対処するために必要な衛生統計と疫学の基礎を学修した後、わが国の保健医療福祉制度、感染症への対策を学び、これらに基づく疾病予防対策のあり方について考察する。本授業を通じて、臨床検査において疫学指標を用いた結果の解析と評価ができるようになることも目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(32 谷原 真一/3回) 公衆衛生の意義、疫学(疫学と予防医学、疫学的因果関係論、疫学研究方法)</p> <p>(72 中尾 元幸/4回) 衛生統計(人口動態統計と人口動態統計、日本と世界の疾病・障害統計)、感染症(感染症対策・関連法規)</p> <p>(99 山内 圭子/4回) 母子保健、学校保健、成人保健(生活習慣病と健康増進対策)、精神保健・その他</p> <p>(121 桑木 光太郎/4回) 高齢者保健(高齢者保健・福祉の意義と動向)、感染症(新興・再興感染症、医療関連感染)、衛生行政・社会保障・社会福祉、国際保健(国際機関・医療協力、世界の保健状況)</p>	オムニバス方式
	関係法規	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、医療を行う上での根拠となる維持法について系統的に学び、医療施設、医療職種、薬事・環境衛生、福祉、死体解剖、労働、医療保険・介護保険・労働保険に関連する法律について具体的に学修する。また、個人情報保護の遵守、臨床検査における医療過誤防止についても法律を踏まえて学ぶ。</p>	
	マネジメントサイエンス基礎 I	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、保健医療福祉を入門的に学ぶ。日常生活で受けることのできる医療はどのようにして成り立っているのかに目を向け、わが国の医療を提供するしくみ(医療制度、医療提供体制、病院を構成する各部門)についての概略を捉える。また、医学と医療の歴史、および患者の心理や権利、医の倫理、医療チームの一員としての心構えなどの医学概論も学ぶ。</p>	
	マネジメントサイエンス基礎 II	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、日本の社会保障の下で医療を支える法令と制度について学んだ後、安全管理を含めた医療の質を保つための医療管理について、学習を発展させる。医療資源には物的資源・人的資源・財的資源・情報資源が含まれ、医療の質を保つには、これらの資源を適切に供給し続けるための財源も必要である。限られた資源、財源の循環を維持するための取り組みや仕組みを学ぶ。授業の後半では診療報酬請求データなどの医療情報を活用した医療管理の評価手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(12 小原 仁/6回) 総論では医療経営・運営管理に必要な資源とその資源をどのように最適化するかについて概説する。また診療提供実績が含まれている診療情報請求(レセプト)データを用いた現状分析と活用方法については、講義と演習を交えて解説する。</p> <p>(164 折岡 健太郎/4回) 医療資源の種類と特性に応じた管理・活用について概説する。また入院診療の管理ツールとしても活用されている診断群分類(DPC)の取り扱いについても概説する。</p> <p>(34 佐藤 敏信/3回) 厚生労働省で医療政策に携わってきた経験を踏まえて我が国の社会保障について概説し、医療を支える様々な法令と制度について解説する。</p> <p>(32 谷原 真一/1回) 医療の質管理の目的を概説するとともに、品質管理と品質保証について解説する。</p> <p>(121 桑木 光太郎/1回) 医療の質を管理するための評価方法と外部に向けた評価結果の公表と取り扱いについて解説する。</p>	オムニバス方式 講義27時間 演習3時間

保健医療福祉とデータの取り扱い 専門基礎科目	保健医療情報学	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、保健医療情報の情報科学的認識、医療情報システムの実際、医療情報の標準化の動向、診療情報のセキュリティ管理、個人情報保護の方法などについて学修し、ICTを利用した的確な診療情報管理がいかに保健医療の質の向上に貢献し得るかを学ぶ。いずれの回もコンピューター実習室で実施し、演習により理解を促進させる時間を設ける。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(12 小原 仁/2回) 医療情報の種類と特徴に応じた取り扱い上の注意を概説する。また行政が進める保健医療の情報化政策についても概説する。</p> <p>(73 宮本 貴宣/2回) 病院内で利用されている情報システムの種類と構成を概説し、特に電子カルテシステムとオーダーリングシステムについては、操作・取り扱い方法を解説する。</p> <p>(100 松本 晃太郎/2回) 医療情報の伝達、交換、利活用のための標準化と保健医療情報分野に関する標準規格を解説する。</p> <p>(164 折岡 健太郎/2回) 情報セキュリティの観点から個人が管理する保健医療記録 (PHR) と個人情報保護の方法について解説する。</p>	オムニバス方式 講義7時間 演習8時間
	統計学	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】ほぼ全てのデータサイエンスは統計学を基礎として成り立っている。本授業では統計学の基本的な考え方を修得し初歩的なデータ解析が出来るようになることを目標とする。要約統計量の意味、分布、推定、検定の考え方を学び、そのうえで臨床研究で頻出である t 検定、Mann-Whitney U 検定、カイ2乗検定、Fisher 正確検定、相関係数について、コンピューターソフトウェアでの実施と共に修得する。本授業を通じて、その後のデータサイエンス関連講義の学修や研究に必要な基礎知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 室谷 健太/5回) 講義と演習にて、統計学とデータサイエンス、データの整理、感度・特異度・ROC 曲線についての概説と演習指導を行い、授業最終2回には本授業で取り扱った内容の復習・演習を統括、指導する。</p> <p>(7 室谷 健太、35 古川 恭治、74 大山 哲司/10回) (共同) 講義と演習にて、分布と基本統計量、母集団とデータ・点推定・信頼区間、仮説検定、2群の連続変数の比較、名義変数の比較、相関係数、回帰分析についての概説と演習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義15時間 演習15時間
	データサイエンス基礎 I	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】臨床研究デザイン、回帰分析に基づく調整解析やリスク因子の探索、生存時間分析といった臨床研究で必須となる知識と技能の修得を目指す。実際のデータセットの解析を通じて現場に近い感覚での演習を行う。後半では統計ソフトウェアRの基本技術を学び、機械学習とAIの基礎を学修する。これからの臨床検査技師が習得しておくべきデータサイエンスの基礎固めを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(7 室谷 健太/8回) 臨床研究デザイン、回帰分析、生存時間分析などの臨床研究を計画・実施するために必要な統計学的事項について、講義と演習を交えて解説、指導する。</p> <p>(36 穴澤 務/4回) 統計ソフトウェアRを用いた基本統計学の各種解析法について、講義と演習を交えて解説、指導する。</p> <p>(100 松本 晃太郎、7 室谷 健太/3回) (共同) 機械学習やAIの基礎的な考え方と活用法について、講義と演習を交えて解説、指導する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義15時間 演習15時間
	データサイエンス基礎 II	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】より専門的にデータサイエンスを学修する。具体的には、①疫学とリスク評価のための統計解析、②機械学習とAIの実践的な活用、③医療経済評価のための考え方の修得、④医療機器の信頼性や妥当性を評価するための統計学的手法の学修、⑤システマティックレビュー論文を読み進めていくために必要なメタアナリシスの学修を進める。これからの臨床検査技師が知っておくことが望まれる実践的なデータサイエンスの修得を目指す。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(35 古川 恭治、7 室谷 健太/2回) (共同) 疫学・リスク評価について、講義と演習を交えて解説、指導する。</p> <p>(100 松本 晃太郎、7 室谷 健太/2回) (共同) ビッグデータに対する機械学習的アプローチなどAIの活用について、講義と演習を交えて解説、指導する。</p> <p>(75 加藤 淳一/2回) マーケティング、特に「市場創造」という課題に対するデータ分析について、医療との関連性を意識させながら、講義と演習を交えて解説、指導する。</p> <p>(74 大山 哲司、7 室谷 健太/1回) (共同) 医療検査技法や聴きの信頼性や妥当性評価のための統計解析について、講義と演習を交えて解説、指導する。</p> <p>(7 室谷 健太/1回) システマティックレビューとメタアナリシスについて、講義と演習を交えて解説、指導する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義7時間 演習8時間

専門科目 病態・病理と疾病	病理学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人体の病的状態について病理組織学的見地から系統立てて学ぶ。個々の病態は互いに連動することで、さまざまな症状・徴候として人体に現れる。これらを病態生理像として俯瞰することにより「病の理（やまいのこころ）」すなわち病気の原因を理解することを目標とする。本授業は病理学の総論として、全8回の講義にて①遺伝子・染色体異常を含む発生の異常、②組織細胞障害とその修復機構、③物質代謝異常、④循環障害、⑤炎症、⑥免疫異常、⑦腫瘍、⑧老化と死をテーマに取り上げる。	
	病理学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、「病理学Ⅰ」で修得した病理総論的思考をもとに、個々の臓器、システムに由来する病的状況について詳細に学修する。全13回の講義にて①循環器領域、②呼吸器領域、③上部消化管、④下部消化管、⑤肝・胆道・膵、⑥腎・泌尿器・男性生殖器、⑦婦人科、⑧乳腺、⑨内分泌領域、⑩リンパ節・造血器、⑪中枢神経、⑫小児・皮膚・膠原病、⑬骨軟部腫瘍における病的状況を取り上げ、それらが疾患名および検査、診断にどのように結びつくかを学ぶ。	
	病態生理学Ⅰ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、解剖、生理、生化学など基礎医学を統合した視点に立ち、『人体の生理機能を維持する仕組み』とその一部の『機能が損なわれた病態』について学ぶ。それぞれ「〇〇学」として学んできた事項を、個体の生命活動の中で捉えなおし、各要素の関連性を認識することにより、2年次から学修する疾病および臨床検査学を理解する下地を作る。主たるテーマは、赤血球のライフサイクルとその異常、止血機構とその異常、心臓のポンプ機能とその異常とし、意識障害の機序と一次救命救急処置の適応と方法についても学ぶ。また、心臓の電気活動と心電図所見の関係については、2年次の専門的な授業で自ら考え、疑問を解決するための基礎力を養う内容とする。	
	病態生理学Ⅱ	本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、基礎医学の視点から疾病と病態生理、臨床検査学を理解するための統合学修を行う。また、本授業を通じて、2年次の学内実習で取り組む心・血管エコー（「画像検査学Ⅰ」）、筋電図検査（「生理検査学実習」）について、検査を実施する意義や得られる所見の解釈に必要な基礎知識を整理する。これらの授業は、対応する学内実習の日程に配慮したタイミングで実施する。 (オムニバス方式/全14回) (3 武谷 三恵/12回) 心周期と心音・心雑音の発生機序、心臓弁膜症、胎児循環と先天性心疾患、循環血液量の調節機構、浮腫の発生機序と原因疾患、ショックの発生機序と原因疾患、胸痛・腹痛の発生機序、悪心・嘔吐の発生機序、ストレスに対する生体の急性応答・慢性応答、身体運動が発現するしくみ(反射と随意運動/筋の収縮張力と運動単位の動員)、針筋電図・表面筋電図の所見と神経伝導速度の測定方法 (① 西 昭徳/2回) 大脳基底核、小脳、大脳辺縁系の働きとその障害	オムニバス方式
血液学	本授業の形態は、講義とする。【概要】血液学は、血液および血液細胞を産生する骨髄を含む造血器、リンパ節とその異常（血液疾患）を対象とする学問である。本授業では、各血球の発生分化・形態・機能および凝固線溶系の仕組み、これらの異常により引き起こされる各種血液疾患の病態・検査を学修する。貧血や様々な造血器腫瘍の成因と診断、正常の止血機能を理解する。近年、血液疾患の分子レベルでの解析が進んでいる。これらの原理、検査法、結果の解釈を含め最新の知見についても学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (122 山口 真紀/7回) 血液学総論（造血システム、赤血球系、白血球系、凝固・線溶系疾患） (10 関 律子/4回) 各論（血液・造血器の各種疾患における病態と検査） (123 大屋 周期/2回) 各論（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などリンパ系腫瘍） (76 三好 寛明/1回) 各論（造血組織及びリンパ節の正常構造と疾患） (77 大園 秀一/1回) 各論（小児血液学分野 特に白血病・リンパ腫）	オムニバス方式	



専門科目 病態・病理と疾病	臨床医学総論Ⅰ	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】臨床医学総論では、臨床医学における臨床検査の必要性を理解するために、臨床検査技師に必要な臨床医学の知識（疾患概念、病態生理、診断学）を修得し、必要な臨床検査や結果を的確に判断できるようになることを目標とする。本授業では心臓血管内科、消化器内科、内分泌代謝内科、腎臓内科の医師がそれぞれ以下の領域における専門的な知識を臨床検査技師に必要な観点から講義し、より具体的な理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(132 赤垣 大樹／1回)          心筋虚血をきたす疾患</p> <p>(131 高橋 甚彌／1回)          不整脈</p> <p>(133 柴田 怜／1回)          心肥大・電解質異常時の心電図</p> <p>(124 吉岡 慎一郎／1回)          消化管疾患のうち、逆流性食道炎、消化性潰瘍、炎症性腸疾患、過敏性腸症候群</p> <p>(125 福永 秀平／1回)          消化管疾患のうち、食道癌、胃癌、大腸癌</p> <p>(126 中根 智幸／1回)          消化管内視鏡、直腸肛門機能検査の適応疾患と検査の原理、方法、検査所見</p> <p>(37 岡部 義信／1回)          胆臓疾患（胆嚢炎、胆石、胆嚢癌、急性膵炎、慢性膵炎、自己免疫性膵炎、膵癌）</p> <p>(2) 有永 照子／2回)          肝臓疾患（急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、肝癌、ウイルス性肝炎、脂肪肝、アルコール性肝炎、自己免疫性肝炎、代謝性肝疾患）</p> <p>(38 野村 政壽／1回)          糖代謝異常、脂質代謝異常をきたす疾患、メタボリックシンドロームの診断基準と病態</p> <p>(127 永山 綾子／1回)          電解質・必須微量元素・ビタミンの低下症と過剰症、骨粗鬆症</p> <p>(128 井口 志洋／1回)          糖尿病診療における連続皮下ブドウ糖濃度測定（CGM）</p> <p>(129 蓮澤 奈央／1回)          下垂体疾患（先端肥大症と巨人症、下垂体性小人症、下垂体機能低下症、尿崩症、ADH不適合分泌症候群）</p> <p>(78 蘆田 健二／1回)          甲状腺疾患（機能亢進症と低下症、亜急性甲状腺炎、慢性甲状腺炎）、副甲状腺疾患（機能亢進症と低下症）、副腎皮質疾患（クッシング症候群、アルドステロン症、アジソン病）、副腎髄質疾患（褐色細胞腫）</p> <p>(130 田口 颯正／1回)          腎・尿路疾患、腎不全の原因・分類・病態・治療</p>	オムニバス方式
	臨床医学総論Ⅱ	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】臨床医学総論では、臨床医学において臨床検査の必要性を理解するために、臨床検査技師に必要な臨床医学の知識（疾患概念、病態生理、診断学）を修得し、必要な臨床検査や結果を的確に判断できることを目標とする。本授業では、呼吸器疾患、感染症、アレルギー疾患、自己免疫疾患・免疫不全、悪性新生物、血液学、産科婦人科疾患、臨床薬理学、中毒について学修し、病態の理解に基づいた臨床検査の必要性の理解と診断・治療における臨床検査の意義を理解する。</p> <p>(オムニバス方式／全16回)</p> <p>(39 星野 友昭／8回)          呼吸器疾患、感染症、アレルギー疾患、膠原病および類縁疾患、免疫不全</p> <p>(21 古賀 浩徳／1回)          悪性新生物（総論：癌の基礎と臨床）</p> <p>(79 中村 徹／1回)          悪性新生物（癌のトランスレーション医療）</p> <p>(10 関 律子／1回)          血液疾患</p> <p>(3) 真田 咲子／2回)          産科婦人科疾患（婦人科疾患、周期期の基本的知識と病的状態）</p> <p>(1) 西 昭徳／2回)          臨床薬理学（合理的な薬物療法の実践と個別化医療、医薬品開発と臨床試験）</p> <p>(40 松瀬 博夫／1回)          中毒（CO中毒後遺症）</p>	オムニバス方式

病態・病理と疾病 専門科目	生理検査学Ⅱ	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、2年次の「生理検査学Ⅰ」および「生理検査学実習」において修得した各種生理検査の手法とそれぞれの正常所見を踏まえ、特に疾患による病的所見について学ぶ機会とする。実際の画像や波形から正常と異常の区別を修得する。また、生理学的検査における被検者に対する倫理観、各種疾患を有する被検者に検査を実施する上での留意事項についても併せて修得する。</p> <p>(オムニバス方式／全17回)</p> <p>(9 八木 朝子／1回) 生理検査学Ⅰの総括として、各種生理検査の測定法と、正常者の検査結果について振り返り、生理検査学Ⅱで学ぶべきポイントについて概説する。</p> <p>(101 木下 隆／2回) 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、睡眠時呼吸障害に罹患した場合に認められる検査所見について、実際の肺機能所見等を用い、正常との違いを概説する。</p> <p>(131 高橋 甚淵／2回) 循環器系疾患である不整脈、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患に罹患した場合に認められる検査所見について、実際の心電図、心エコー図などの所見を用い、正常との違いを概説する。</p> <p>(80 安元 眞吾／1回) 精神・神経科疾患であるてんかんに罹患した場合に認められる検査所見について、実際の脳波記録などの所見を用い、正常との違いを概説する。</p> <p>(42 小路 純央／1回) 精神・神経科疾患である認知症に罹患した場合に認められる検査所見について、実際の脳波記録やMRI画像などの所見を用い、正常との違いを概説する。</p> <p>(41 小曾根 基裕／1回) うつ病、双極性障害、統合失調症など代表的な精神科疾患や睡眠障害に罹患した場合に認められる検査所見について、正常との違いを概説する。</p> <p>(102 立石 貴久／2回) 中枢神経の変性・脱髄疾患、感染症、腫瘍、脳血管疾患に罹患した場合に認められる生理検査所見（脳波や筋電図などを中心に）や画像などを用い、正常との違いを概説する。</p> <p>(81 山田 圭／3回) 神経伝導速度、運動誘発筋電図を含んだ筋電図を主体とした神経機能検査についてその測定方法を概説し、検査結果評価については正常と疾患の場合との違いを概説する。</p> <p>(103 三橋 亮太／1回) 感覚器の検査である聴覚検査の意義、および測定法と評価法について概説する。</p> <p>(135 田中 久一郎／1回) 感覚器の検査である平衡機能検査の意義、および測定法と評価法について概説する。</p> <p>(136 佐藤 文彦／1回) 上気道の正常構造と機能を概説し、上気道および気管カニューレからの微生物検査目的での検体採取の方法と注意点、および感覚器の検査である嗅覚検査の意義と測定法・評価法について概説する。</p> <p>(134 阿久根 徳高／1回) 感覚器の検査である眼底検査の意義、および測定法と評価法について概説する。</p>	オムニバス方式
	臨床栄養学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、適切な検査データを提供できるようになるため、臨床検査技師に必要な臨床栄養学を体系的に学び、臨床検査との関わりを理解できることを目標とする。そのために消化吸収に必要な解剖、病態、検査を把握し、年齢・ライフステージごとの栄養の在り方、疾患を有する患者の栄養サポートの方法、内容を学ぶ。栄養サポートとしては、医師、栄養士、リハビリテーション部門との連携などチーム医療についても学び、チーム医療における臨床検査技師の役割を考察する。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(2) 有永 照子／3回) 消化器系の各器官の病理解剖、消化吸収機構、消化管の検査、膵機能検査、肝機能検査について、消化器内科医の立場から概説する。</p> <p>(44 加治 建／2回) ライフステージと栄養（乳幼児期、学童・思春期、青年期、成人期、妊娠期、授乳期）について、小児外科医の立場から概説する。</p> <p>(43 川口 巧／3回) ライフステージと栄養（更年期、高齢期）、疾患と栄養（栄養サポートチーム、栄養状態の評価と判定）について、栄養療法を専門とする消化器内科医の立場から概説する。</p> <p>(165 永松 あゆ／1回) 疾患と栄養（疾患・症状別食事療法、病院食、栄養補給法）について、栄養サポートチームで活動する管理栄養士の立場から概説する。</p> <p>(40 松瀬 博夫／1回) 疾患と栄養（健康づくりと食生活、生活習慣）について、リハビリテーション医の立場から概説する。</p>	オムニバス方式

病態・病理と疾病 専門科目	睡眠医学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】睡眠の問題は、昼間の生活に支障をきたすだけでなく、事故やヒューマンエラーなどの社会的問題、うつ病などの気分障害、生活習慣病と密接に関係しており、このような現状を踏まえ今後は睡眠の健全化を目指す必要がある。本授業では、過眠や不眠を主訴とする睡眠障害に関して、その検査、診断、治療に関する知識を修得する。また、睡眠医療に精通する教員がオムニバスで講義を担当することにより、睡眠医療が多様な専門領域の医師、臨床検査技師、薬剤師が関与するチーム医療であることへの理解を深める機会ともする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回) (うち1回は共同)</p> <p>(41 小曾根 基裕・9 八木 朝子/1回) (共同)          総論として、睡眠の基礎生理と各種睡眠障害について、概説する。          ※〈41 小曾根 基裕〉は精神神経科医の立場から、〈9 八木 朝子〉は臨床検査技師の立場から概説する。</p> <p>(138 石井 隆大/1回)          小児科医の立場から、小児における睡眠生理、および成長発達に伴う睡眠と生活リズムの形成について概説する。</p> <p>(167 橋本 鶴美/1回)          臨床検査技師の立場から、睡眠障害を診断する検査(睡眠ポリグラフ検査、反復睡眠潜時検査)について概説する。</p> <p>(137 戸次 宗久/1回)          循環器内科医の立場から、睡眠障害の中で最も有病率の高い睡眠時呼吸障害の合併症について概説する。</p> <p>(45 川山 智隆/1回)          呼吸器内科医の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、持続陽圧呼吸療法について概説する。</p> <p>(139 佐藤 公宣/1回)          耳鼻咽喉科医の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、外科的療法について概説する。</p> <p>(168 江崎 和久/1回)          歯科医の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、歯科的療法について概説する。</p> <p>(166 池田 真由美/1回)          栄養士の立場から、睡眠呼吸障害の診断と治療のうち、減量や栄養指導の有効性について概説する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	臨床病理検討会	<p>本授業の形態は講義し、一部演習が含まれる。【概要】本授業では、実際の剖検症例を通して疾病の治療過程で行われた医療行為と病態生理全般を学ぶこととする。いわゆる「病的状態」であることはどうか、具体的に症例を提示しながら教科書を超えた実際の病態から理解を進める。病的状態が組み合わさって人体に及ぼす影響、ひいては死に至る状況について、段階を追って学ぶ。全8回の授業にて、感染症・敗血症、心筋梗塞、糖尿病、悪性腫瘍(2症例)、代謝性疾患、熱傷・外傷、膠原病の症例を対象とする。授業内では、一部の症例課題において、久留米大学病院で開催される臨床-病理検討会(Clinico-Pathological Conference: CPC)へ参加する。</p> <p>本授業の到達目標として、症例毎に以下の観点から病態生理を理解することとする：①どのような背景・要因から病的状況が発生したのか、②複数の要因がどのように影響を及ぼし合いながら病態が進行したのか、③病態の進行をくい止めるべく行われた治療に対し、生体はどのように反応したのか。そのため、症例毎に病態生理図を作成して提出することを課す。</p>	講義12時間 演習4時間
	薬理学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、薬物治療を行うために必要な薬理学の基本を学ぶことを目標とする。薬物と薬物受容体の反応(薬力学 Pharmacodynamics)、薬物の生体内での動き(薬物動態学 Pharmacokinetics)について十分に習得し、薬物の有害反応と相互作用について学ぶ。さらに、基本的な薬物の臨床応用と適切な使用方法について学び、薬物療法の考え方と実際を理解する。具体的には、臨床検査技師に必要な自律神経作用薬、中枢神経作用薬、感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬についての知識と考え方を取り上げる。また、薬物投与計画に必要な薬物血中濃度測定とTDM(治療薬物モニタリング Therapeutic Drug Monitoring)についても学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(① 西 昭徳/4回)          薬理学の概念と薬理作用、薬物の有害反応と相互作用、自律神経作用薬、中枢神経作用薬について概説する。</p> <p>(61 首藤 隆秀/2回)          感染症治療薬、抗悪性腫瘍薬について概説する。</p> <p>(140 黒岩 真帆美/1回)          薬物動態について概説する。</p> <p>(169 酒井 義朗/1回)          TDMによる薬物治療について概説する。</p>	オムニバス方式

臨床検査学の基本 専門科目	臨床検査学・ヘルスサイエンス入門	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、臨床検査技師を目指して専門基礎科目、専門科目を有意義に学ぶことができるよう、各専任教員の専門の立場から、医療検査学科で学ぶ内容と意義・魅力について概説する。臨床検査学の各領域の概要をつかむとともに、医療検査学科独自のプログラムとして、多様で高度な医療のニーズに対応できる臨床検査技師となるために開講されるバイオサイエンス、データサイエンス、マネジメントサイエンスの科目についての概要を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1) 西 昭徳、(2) 有永 照子、3 武谷 三恵/1回 (共同) 臨床医学における臨床検査学について、医師の立場から概説し、医療検査学科で専門基礎科目、専門科目を学ぶ際の取り組み方についてのオリエンテーションを行う。</p> <p>(11) 田代 恭子、13 吉野 千代/1回 (共同) 血清検査学入門：血清検体に含まれる成分を解析する検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。</p> <p>(10) 関 律子/1回) 血液検査学入門：血液中の血球成分の数と形態・機能、および凝固・線溶機能を調べる検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。</p> <p>(5) 棚町 千代子、(5) 糸山 貴子/1回 (共同) 微生物検査学・一般検査学入門：血液、髄液、気道分泌物、尿、糞便、穿刺液、膿などの各種検体に含まれる感染症の原因微生物と薬剤感受性を調べる『微生物検査』、および血液以外の体液と糞便に含まれる成分を解析する『一般検査』について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。</p> <p>(9) 八木 朝子/1回) 生理検査学入門：生体の活動や臓器の形態を被検者から直接測定する検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。</p> <p>(3) 真田 咲子、15 福満 千容/1回 (共同) 病理検査学入門：疾患や病態を診断するため、身体各部位から採取された検体から組織や細胞の標本を作製、観察する病理検査について、検査の意義や臨床検査技師の関わり方、学修の仕方を概説する。</p> <p>(6) 真茅 孝志/1回) 医用工学入門：臨床検査では、人体に電磁波を作用させたり、生体で発生する電気活動を記録したりする医用電気機器が用いられる。臨床検査技師として医用工学を学ぶ意義や活用例、学修の仕方を概説する。</p> <p>(4) 伴 匡人/1回) バイオサイエンス入門：臨床検査技師には、医学や医療の進歩に応じて常に新たな検査手法やデータの解釈・理解を身に付けていくことが求められている。これらの技法の進歩に大きな影響を与えるバイオサイエンス（生命科学）について、概説する。</p> <p>(7) 室谷 健太/1回) データサイエンス入門：検査データの適切な評価、精度の高いデータを得るための検査システムの管理、新たな診断法や治療法を開発するための臨床研究の実施に欠かせないデータサイエンス（情報科学）について、概説する。</p> <p>(12) 小原 仁/1回) マネジメントサイエンス入門：医療の提供は、医療制度と医療施設の適切な在り方の上に成り立つ。また、医療施設で得られる診療情報は、活用の仕方によって提供する医療をより効果の高いものとするために有用である。これからの臨床検査技師として活用できるマネジメントサイエンス（診療情報管理）について、概説する。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	医学英語	<p>本授業の形態は講義とし、一部演習も含まれる。【概要】本授業では、臨床検査の場面で必要な英会話力と、医学・医療の英語論文や英文教科書を読むための英語力を修得するために、臨床検査技師に必要な身体器官の構造・機能、疾患、臨床検査を英語で理解し、説明できるようになることを目標とする。指定教科書「やさしい医学英語（医学書院；青野淳子著）」のチャプターを読み進める形式で講義を行い、13回は身体器官の構造・機能に関する英語表現の理解、1回は検査室での英会話、3回は英語論文検索と医学英文論文の読解と論文要旨のプレゼンテーションを行う構成とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(1) 西 昭徳/6回) 講義にて、医学英語基礎、呼吸器系と呼吸器系の疾患、泌尿器系と泌尿器系の疾患、神経系と神経系の疾患、皮膚および感覚器と皮膚および感覚器の疾患、内分泌系と内分泌系の疾患の英語表現について概説、指導する。</p> <p>(3) 武谷 三恵/1回) 講義にて、循環器系と循環器系の疾患の英語表現について概説、指導する。</p> <p>(10) 関 律子/1回) 講義にて、血液と血液の疾患の英語表現について概説、指導する。</p> <p>(2) 有永 照子/2回) 講義にて、消化器系と消化器系の疾患、筋骨格系と筋骨格系の疾患の英語表現について概説、指導する。</p> <p>(3) 真田 咲子/1回) 講義にて、生殖系と生殖器系の疾患の英語表現の講義を行う。</p> <p>(1) 西 昭徳、(2) 有永 照子、10 関 律子/4回 (共同) 講義にて被検者・患者との会話を、演習にて英語論文検索と医学英語長文の読解についての概説、指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義24時間 演習6時間
	血液検査学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、2年前期「血液学」で学んだ内容に引き続き、主に血液検査の方法について学ぶ。臨床現場では自動分析機器による分析が主流であるが、基本である用手法を理解する事は重要である。講義内容は、血球計数の用手法と機器分析についての測定原理、末梢血塗抹標本の作製方法や血液細胞を観察するための基本的な染色原理・方法と血球の特徴について学ぶ。凝固・線溶検査では臨床で頻用されるプロトロンビン時間（PT）検査や活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）検査を中心に、基礎と出血性素因の診断に必要な検査を学修する。授業の後半では、血液や骨髄検体などを用いたフローサイトメトリーや染色体検査結果と疾患の診断および結果の判定についても学ぶ。</p>	

臨床検査学の基本 専門科目	血液検査学実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では、血液検体の取り扱い法、血球算定、血液・骨髄形態診断、標本作製、普通染色、特殊染色、止血・血液凝固、線溶系検査など、血液検査の基本手技を身に付けることを目的とする。血液塗抹標本を作製、観察し、各分化段階の形態学的特徴を捉え白血球分類を行う。正常細胞分類を修得した後は、異常細胞の鑑別を行い、その他の検査所見も併せて総合的に診断する力を養う。ここでは造血器腫瘍のWHO分類に基づいた診断を学ぶ。また、止血・線溶・凝固では、これらの質的・量的異常を捉え出血性素因及び血栓性素因の診断に関する検査法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(10 関 律子、170 垂水 俊樹、② 有永 照子/12回) (共同)          検体の取扱い、用手法による血球算定、正常骨髄像の観察とスケッチ、異常骨髄像の観察とスケッチ、血液疾患症例検討と解説(赤血球の異常、白血球の異常)</p> <p>(10 関 律子、170 垂水 俊樹、⑤ 糸山 貴子/8回) (共同)          赤血球浸透圧抵抗試験、赤血球沈降速度、血液薄層塗抹標本作製と普通染色、末梢血液像の観察と同定および白血球分類、特殊染色</p> <p>(10 関 律子、171 岡田 和夫、⑤ 糸山 貴子/8回) (共同)          血小板検査、血液凝固検査</p> <p>(10 関 律子、171 岡田 和夫、② 有永 照子/2回) (共同)          凝固疾患症例検討と解説</p>	オムニバス方式・共同
	病理検査学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】病理検査は、病気の最終診断であり、病期及び治療方針の決定に重要な役割を果たしている。正確かつ迅速な病理診断を可能にするためには、優れた病理組織標本作製が必要不可欠である。本授業では、標本作製の技術(固定、脱脂、脱灰、包埋、薄切、染色、電子顕微鏡技術、病理解剖)を学び、実際の臨床現場ならびに病理学的研究で応用できる知識や技術を身につけ、コンパニオン診断についても理解を深めることを目的とする。さらに、細胞学的検査では、各領域(検体)に出現する細胞形態学的特徴を理解し、正常・良性・悪性細胞の相違点を修得する。また、検体採取法と標本作製法(細胞塗抹法、固定法、染色法)を学び、細胞診断の実際(スクリーニング方法)や細胞診検体の免疫細胞化学および遺伝子検査への応用に関する知識を修得する。最終的には学んだ内容を説明できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>③ 真田 咲子、15 福満 千容/9回) (共同)          病理検査について、検体処理(固定法、切り出し)、病理解剖、コンパニオン診断、細胞診検査の概要とスクリーニング(正常細胞と悪性細胞の見分け方)、細胞診における細胞採取法と検体処理法、婦人科の細胞診(正常～悪性細胞、感染症)、呼吸器の細胞診(正常～悪性細胞、感染症)、肺がん検診、消化器および泌尿器の細胞診(正常～悪性細胞、感染症)、体腔・乳腺・甲状腺・唾液腺・リンパ節の細胞診          ※③ 真田 咲子)は病理医の立場から、⑤ 福満 千容)は臨床検査技師および細胞検査士の立場から概説する。</p> <p>(15 福満 千容/6回)          検体処理(包埋、薄切の標本作製法)、一般染色、特殊染色、免疫組織化学染色、ISH法、FISH法、電子顕微鏡技術、授業の最終回で臨床検査技師が携わる病理検査法についての総括</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	病理検査学実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では「病理検査学」の講義で学んだ知識を活かし、病理組織標本作製及び各種染色の基本技術を習得することを目的とする。近年コンパニオン診断のために病理検査では標本作製作業手順の見直しや品質・精度管理についての議論が頻繁に行われている。病理組織標本の品質が病理診断に与える影響を理解し、適切な標本作製を習得する。また、確定診断に必要な不可欠となる免疫組織化学染色についても習得する。各種の特殊染色においては、染色原理や使用する試薬に関する知識のみならず、疾患との関連性など染色意義についての知識を身に付ける。細胞診においては、細胞塗抹法、固定法、染色法の理解を深め、細胞診における各細胞の診断基準および判定方法を理解する。最終的には学んだ内容を説明できるようになることを到達目標とする。</p> <p>(全30回における担当者の役割)</p> <p>③ 真田 咲子)          病理標本の「切り出し」について概説し、実習に用いる標本を臓器から切り出す。これ以外の実習については適宜、概説・指導を行う。</p> <p>(15 福満 千容)          「切り出し」時には、補助と見学する学生への指導を行う。これ以外の実習については、実習の企画・各実習項目の概説・指導を行う。</p>	共同
	一般検査学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業で学ぶ一般検査とは、血液以外の検体(尿、糞便、脳脊髄液、喀痰、気管支洗浄液、関節液、穿刺液、精液等)以下、一般検査用検体)に含まれる成分を半定量的または形態学的に分析する検査法である。本授業では、まず、腎臓の解剖・生理学的知識を復習した後、医療現場で検査される一般検査用検体の適切な検体採取法、成分の化学的スクリーニング検査法、光学顕微鏡等を用いた有形成分の形態観察法を学修する。また、本授業の後半には、マラリアを含む主な寄生虫の形態学的特徴・感染経路・検査法、およびヒトの体表に寄生したり刺咬吸血して伝染病を媒介したり有毒物質により害を与える衛生動物についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全24回)</p> <p>⑤ 糸山 貴子/20回)          一般検査の概要を解説する。具体的には、腎臓の解剖学的基礎知識、尿の生成と排泄を概説し、尿の組成、腎機能検査および一般検査用検体の適切な採取方法と化学的スクリーニング検査(原理、検査法、結果解釈、臨床的意義)、検体の有形成分を光学顕微鏡等で観察する検査法(原理、検査法、結果解釈、臨床的意義)について解説する。</p> <p>(11 田代 恭子/1回)          質量分析による新生児マススクリーニングについて概説する。</p> <p>③ 真田 咲子/2回)          主な寄生虫の形態学的特徴・感染経路・検査法、感染時の症状と病理所見、および関連する衛生動物について概説する。</p> <p>(10 関 律子/1回)          マラリアについて概要、感染経路、検査法、形態学的特徴について概説する。</p>	オムニバス方式

臨床検査学の基本 専門科目	一般検査学実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では「一般検査学」の講義で学んだ知識を活かして、尿検体、糞便検体の化学的スクリーニング検査法、尿沈渣検査法、髄液細胞数算定検査法の技術を習得し、各検査結果の解釈と判定を学ぶことを目的とする。また、本授業の後半には寄生虫検査の実技を含めることとし、糞便の虫卵検査法の習得、および光学顕微鏡を用いた主な寄生虫と衛生動物、血液塗抹標本のマラリアの形態観察を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(⑤ 糸山 貴子、11 田代 恭子/14回) (共同) 尿の化学的スクリーニング検査 (測定項目: pH、比重、蛋白、アルブミン、Bence Jones 蛋白、糖、アセトン体、ビリルビン、ウロビリノゲン、血尿、ヘモグロビン尿、ミオグロビン尿、インジカン、バニルマンデル酸、妊娠反応)、および便中ヘモグロビン検査</p> <p>(⑤ 糸山 貴子、170 垂水 俊樹 /10回) (共同) 尿沈渣標本の作製と尿中有形成分 (赤血球、白血球、上皮類、円柱類、結晶等) の観察、模擬髄液検体を用いた細胞数算定</p> <p>(③ 真田 咲子、⑤ 糸山 貴子/4回) (共同) 主な寄生虫の形態学的特徴の観察、模擬糞便検体を用いた虫卵検査法、関連する衛生動物の形態観察</p> <p>(10 関 律子、⑤ 糸山 貴子/2回) (共同) マラリアの検査方法と形態観察</p>	オムニバス方式・共同
	臨床化学検査学Ⅰ	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】「臨床化学検査学」は、生化学検査に関する知識と技能を学ぶ科目とする。生化学検査とは、血液、尿をはじめとする体液に含まれる成分を物理学的・化学的・生化学的・免疫化学的方法を駆使して定量的に分析し、それにより健康・病態の評価を行う検査法である。本授業では、信頼される生化学検査値を報告するために検体採取から検査結果報告までの一連のプロセスを、総論として学ぶ。さらに血液検体成分の生化学検査に用いられる基本的な各種測定法とその原理を学んだ後、各論として、電解質、糖質、脂質、ホルモン、ビタミンの生化学検査法について学修する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(11 田代 恭子/4回) 生化学検査の特徴・測定体系、測定値の管理、生理的・測定技術変動、自動分析法について概説する。</p> <p>(④ 伴 匡人/3回) 基本的な分析方法 (分光光度分析法、クロマトグラフィ、電気泳動、マスペクトロメトリ、免疫化学的分析法、電気化学分析) とその原理について解説する。</p> <p>(13 吉野 千代/8回) 生化学検査法各論 (電解質、糖質、脂質、ホルモン、ビタミン) の測定原理、基準値、測定の意義) について解説する。</p>	オムニバス方式
	臨床化学検査学Ⅱ	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では「臨床化学検査学Ⅰ」に引き続き、生化学検査法の各論として、各種成分の分析方法と基準値、および測定の意義を学ぶ。次に、生化学検査項目のうち、疾患の有無や病態の変化・治療効果を評価するのに有用な『疾患マーカー』に着目し、各種マーカーと疾患や病態の関係について学ぶ。また、一般的に血清検体から同時測定した複数の生化学検査項目のうち、異常なデータの組み合わせと逸脱度から病態や重症度が評価されることから、授業の後半に、症例の生化学検査データ一覧を読み取り、病態を考察するトレーニングを行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(13 吉野 千代/10回) 生化学検査法各論として、タンパク質 (総タンパク、アルブミン、免疫グロブリンやその他の血漿タンパク)、非タンパク性窒素化合物 (アンモニア、尿素窒素、クレアチンとクレアチニン、尿酸、ビリルビンなど)、各種酵素 (AST、ALT、LD、γ-GT、アミラーゼ、クレアチンキナーゼなど)、骨代謝マーカー (骨型アルカリホスファターゼなど) の測定原理、基準値、測定の意義について解説する。各種病態の指標となりうる疾患マーカーとしては、心不全や心筋梗塞、肝・胆道・腎疾患、腎機能障害、糖・脂質代謝異常、悪性腫瘍などについて、基礎的事項と臨床検査技師の関わり方を概説する。</p> <p>(② 有永 照子、13 吉野 千代/5回) (共同) 協同学習方式5~8症例の生化学データの検討を行う。協同学習方式により、グループ学習の成果をクラスで共有・討論をしながら問題意識を持たせ、理解を深めさせる。行う。 ※② 有永 照子)は医師の立場から、病歴、症状、診察所見、診断、治療への応答とも関連づけながら病態を推察できるような助言し、解説する。 ※⑬ 吉野 千代)は臨床検査技師の立場から、検体採取条件まで考慮した生化学検査データの解釈の仕方について解説するとともに、協同学習の円滑な進行を図る。</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	臨床化学検査学実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では試薬調製から手法による一連の測定過程を実践することで生化学分析の測定原理および操作技術を修得することを目標とする。また「化学」「生化学」「臨床化学検査学Ⅰ、Ⅱ」で学んだ知識をもとに、測定結果を解釈し、測定値の臨床的意義の理解を図る。到達目標として、①適切な器具の取り扱いから廃液処理までができる、②ランベルト・ベールの法則を用いてモル吸光係数を求めることができる、③検量線を作成できる、④試薬の精度保証について説明できる、⑤各種生体内目的物質の測定原理の理解、測定試薬の調製、操作技術の修得、測定結果の解釈ができる、⑥酵素のKm値、モル吸光係数について説明できることとする。操作法の修得のため、学生当番が調製した試薬を使用し、各自で測定操作を実践する。自身が定量分析した測定結果の解釈について、終了時には班ごとに口頭試問を受ける。</p> <p>(オムニバス方式/30回)</p> <p>(11 田代 恭子、13 吉野 千代、④ 伴 匡人、172 三栖 徹也/4回) (共同) 吸光度分析、Km値測定、モル吸光係数の算出</p> <p>(11 田代 恭子、13 吉野 千代、172 三栖 徹也/10回) (共同) 試薬の精度検討 (ツインプロット図作成、併行精度、希釈直線性)、LD測定、採血管の違いや熱処理の影響によるアルカリフォスファターゼ活性値の変化</p> <p>(11 田代 恭子、13 吉野 千代、172 三栖 徹也、173 齊藤 弘子/4回) (共同) グルコース測定、トリグリセライド測定</p> <p>(11 田代 恭子、13 吉野 千代、172 三栖 徹也、174 吉富 史美/12回) (共同) 総タンパク、アルブミン測定、血清タンパク分画、尿素窒素測定、クレアチニン測定、尿酸測定、ビリルビン測定</p>	オムニバス方式・共同

臨床検査学の基本 専門科目	免疫学実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】免疫は、生体防御機構として重要な働きをする一方で、輸血や移植を実施した際に生体に有害事象を引き起こす要因ともなる。本実習では、輸血や移植の際に起こりうる免疫反応に関わる分子・細胞について理解を深めるために、ヒトの血液検体を用いて凝集反応、溶血反応の観察やリンパ球サブセットの解析などを行う。本実習を通じて、補体や抗体の構造と機能、主要組織適合遺伝子複合体、リンパ球の種類と機能について学び、臨床検査でも用いられるフローサイトメトリーやELISA法について理解し原理や方法を説明できるようになることを目標とする。準備学習やデータの考察、発表は、協同学習方式にて、小グループ内での話し合いとグループ間での話し合いを積み重ねながら進める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(62 小松 誠和/3回) 実習の概要とグループ学習の進め方(初回)、実習の総括(最終2回)</p> <p>(62 小松 誠和、11 田代 恭子/6回)(共同) 抗体による赤血球凝集反応の観察、補体による溶血反応の観察、ELISAによるサイトカイン測定</p> <p>(62 小松 誠和、119 岡田 季之/2回)(共同) 主要組織適合遺伝子複合体の測定</p> <p>(62 小松 誠和、10 関 律子、119 岡田 季之/2回)(共同) フローサイトメトリーを用いたリンパ球サブセットの解析</p> <p>(62 小松 誠和、10 関 律子/2回)(共同) リンパ球の分離と培養</p>	オムニバス方式・共同(一部)
	免疫検査学	<p>本授業の形態は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】免疫検査学は、抗原抗体反応を主とする免疫学的手法を臨床検査に応用する学問である。本授業では、免疫学的検査が有用な疾患について、診断と病態の評価に用いられる免疫検査法の種類と臨床的意義について学修する。また、臨床検査で用いられる試験管内の抗原抗体反応の基礎(検査法の種類、原理、方法、臨床的意義、結果の解析)を講義で学んだ後、実習にて実技と結果判定を行い、実践を通じて理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(3 真田 咲子/2回) 講義にて、免疫学的検査が有用な疾患(感染症、腫瘍性疾患、アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全症)について、概説する。</p> <p>(11 田代 恭子/4回) 講義にて、免疫学的検査の原理として、試験管内抗原抗体反応の基礎(凝集反応、沈降反応、溶解反応、補体結合反応、中和反応の特徴と原理)、非標識免疫測定法と標識免疫測定法(酵素免疫測定法、発光免疫測定法、蛍光免疫測定法、イムノクロマトグラフィ法)について概説する。さらに、免疫学的検査の実際として、各種感染症を診断するための免疫学的検査、アレルギーの種類と血清IgEや好酸球の測定法、自己免疫疾患関連検査、免疫不全症関連検査、腫瘍性疾患と腫瘍マーカー検査、血清タンパク異常症関連検査について概説する。</p> <p>(11 田代 恭子、13 吉野 千代、175 牟田 誠矢/4回)(共同) 講義、実習にて、以下を概説、指導する：電気泳動法の基礎(免疫電気泳動法、ウエスタンブロット法の特徴と原理)と実際(電気泳動法における測定操作の実践および判定)、抗核抗体検査の基礎(間接蛍光抗体法における抗核抗体の種類と関連疾患)と実際(蛍光顕微鏡を用いた抗核抗体の観察と判定)。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義14時間 実習6時間
	RI検査学	<p>本授業の形態は実習とするが、前半3分の1を講義、後半3分の2で実習を行うものとする。【概要】放射性同位元素(RI)を用いた検査のうち、in vivoの核医学検査として、これまでポジトロン放射断層撮影(PET)やシングルフォトン放射断層撮影(SPECT)の普及、進歩が進んできた。一方、in vitro検体検査は、その多くが酵素免疫測定法(EIA)などのRIを用いない検査に換わっているものの、放射性同位元素を用いた検査が必要なものも存在する。本授業では、講義・実習の形態を交え、放射線の基礎、RIを用いたin vivo、in vitro検査の方法とともに、放射線管理の実際、放射性同位の取り扱いについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(104 久志野 彰寛/4回) 講義にて、放射線の基礎、放射線の測定、放射性医薬品とその基本的性質、ならびに検体検査法について概説する。</p> <p>(177 池末 竜治/1回) 講義にて、体外測定による検査法として、シンチグラフィ、PETにおける臓器別検査の特徴について概説する。</p> <p>(104 久志野 彰寛、176 那須 沙織、① 西 昭徳、④ 伴 匡人/10回)(共同) 実習にて、放射線管理区域への入退室方法、放射線管理の実際、密封線源の取り扱い、非密封放射性同位元素の基本的取り扱い、半減期の測定、in vitro検査法の実際を概説、指導する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義10時間 実習20時間

臨 床 検 査 学 の 基 本  専 門 科 目	遺伝子・染色体検査学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】遺伝子解析技術の発展により、がんや遺伝性疾患を中心に多くの疾患の染色体異常や遺伝子変異に基づく分子病態が明らかになっている。これに伴い、診断に染色体検査や遺伝子関連検査を必要とする疾患が増え、感染症においても病原体の同定に遺伝子検査が用いられている。本授業では、臨床検査実務に不可欠な遺伝子診断、分子生物学的検査方法について基本原理を学習し、患者の遺伝子・染色体診断への応用について、各領域を専門とする講師から学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(3) 真田 咲子／5回) DNA診断の総論、in situ hybridization、PCRの原理と方法、病理診断における遺伝子解析の意義、癌治療における遺伝子解析の意義、の5つのテーマで、病理医の立場から遺伝子解析法、および基礎医学と臨床医学への応用について概説する。</p> <p>(178 佐藤 悦子／2回) 先天染色体異常症、先天異常における染色体検査の意義、後天性染色体異常による造血器腫瘍について、実臨床で遺伝子・染色体検査に携わる臨床検査技師の立場から概説する。</p> <p>(39 星野 友昭／1回) がんゲノム医療が特に進んでいる肺癌の遺伝子診断について、呼吸器医の立場から概説する。</p> <p>(46 渡邊 順子／2回) 先天性異常症候群、先天異常に関する遺伝カウンセリングについて、臨床遺伝専門医、小児科医の立場から概説する。</p>	オムニバス方式
	遺伝子・染色体検査学実習	<p>本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】遺伝子診断技術の急速な発展により、様々な遺伝子疾患や感染症を迅速に検査・診断できるようになった。本実習では、遺伝子検査法の原理と概要を修得する。ヒト培養細胞、酵母、大腸菌を使い、生化学的DNA抽出・操作方法を学ぶ。さらにPCR法を用いた感染症検出や病原体同定、遺伝子多型診断の実際を、それらを模した模擬実験により体験し、実習班ごとに成果発表まで行う。あわせて、染色体核型貼付け及び核型分析による染色体検査を学ぶ。臨床検査や生命科学の現場で、即戦力として活躍するために必要な能力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(27 齋藤 成昭、④ 伴 匡人/1回) (共同) 遺伝子検査法の概要について説明する。</p> <p>(27 齋藤 成昭、95 豊田 雄介、113 石川 健、④ 伴 匡人、10 関 律子/12回) (共同) DNA診断検査技術の原理と手技、結果の評価について、以下の課題を用いて概説、指導する：大腸菌からのDNA抽出、制限酵素切断、電気泳動法、真核生物からのDNA抽出、PCRによる遺伝子増幅、PCRによる遺伝子変異・多型検出、PCRによる生物種同定(ゲル切り出し精製法、DNA配列解読法、相同性検索による種の同定を含む)。また、最後の回には実習班による成果発表で指導を行い、理解を深めさせる。</p> <p>(178 佐藤 悦子/1回) 染色体検査の概要について説明する。</p> <p>(178 佐藤 悦子、④ 伴 匡人、10 関 律子/1回) (共同) 染色体検査の原理と手技、結果の評価について、以下の課題を用いて指導する：正常染色体と腫瘍性染色体異常の核型写真を用いた染色体核型貼付け及び核型分析。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義4時間 実習26時間
	輸血・移植検査学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】輸血医療は、他人の細胞を輸注するため臓器移植に匹敵する医療行為であり直接患者の生命に関わってくる。安全かつ適正な輸血医療のため、臨床検査技師には免疫学の基本的知識に加え、輸血検査全般に関する知識が必要となる。本講義では、輸血検査の基礎知識(輸血用血液製剤、血液型、不規則抗体、各種検査法の原理や目的等)及び輸血副作用等について学修する。また、2022年の法改正で新たに臨床検査技師の業務となった成分採血を行う操作と医療安全についても学修する。授業の後半は、「輸血・移植検査学実習」で実際に取り扱う輸血検査法について、実習前学修を行う。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 田代 恭子／8回) 総論(輸血の歴史、輸血の種類、輸血用血液製剤の種類と特性、輸血の適応と製剤の選択、輸血前に必要な検査)、ABO血液型、Rh血液型、その他の血液型、不規則抗体検査、交差適合試験、輸血副作用、自己免疫性溶血性貧血と自己抗体、血液型不適合妊娠と新生児溶血性疾患、HLA検査、血小板抗体、顆粒球抗原、移植</p> <p>(2) 有永 照子／1回) 成分採血の原理、操作方法と医療安全</p> <p>(10 関 律子／1回) 末梢血造血幹細胞採取と移植及びアフエレーシスの現状について</p> <p>(11 田代 恭子、179 藤好 麻衣／5回) (共同) 輸血検査の実際(実習前学修)：血液型の判定(ABO血液型、Rh血液型検査)、不規則抗体検査、カラム凝集法、交差適合試験、直接抗グロブリン試験、ZZAP法による抗体解離法、抗A抗Bによる吸着解離試験</p>	オムニバス方式・共同 (一部)
	輸血・移植検査学実習	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】安全かつ適正な輸血療法が行われるために、臨床検査技師は輸血検査を適切に行い、適合血の選択を実施しなければならない。本実習では、各輸血検査を的手法で行うことで、「輸血・移植検査学」で学んだ原理と方法、結果解析と評価の仕方について理解を深めるとともに、正しい検査手技と結果判定を修得するまでを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 田代 恭子、179 藤好 麻衣、⑤ 糸山 貴子／14回) (共同) 血液型の判定(ABO血液型、Rh血液型)、不規則抗体検査(生理食塩法、プロメリン法、PEGを用いた間接抗グロブリン試験)、カラム凝集法と交差適合試験、直接抗グロブリン試験、ZZAP法による自己抗体解離試験、抗A抗Bによる吸着解離試験</p> <p>(11 田代 恭子／1回) 実習の総括</p>	オムニバス方式・共同 (一部)



臨床検査学の基本 専門科目	微生物検査学実習 I	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では「細菌学」で学んだ知識をもとに、微生物の取り扱いに必要な心構えと基本操作を修得する。感染予防の考え方や方法を学んだ後、無菌操作、細菌のグラム染色標本作製、顕微鏡観察、培地作製、培養、集落観察、薬剤感受性検査を実施し、それぞれの手法や結果の判定・解釈の基本について理解することを目標とする。本科目は、2年次の「微生物検査学実習Ⅱ」にて実際に菌種同定検査、薬剤感受性検査や、ウイルスの分離・同定を行うための準備学習として位置づけられる。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、181 大坪 直広/9回) (共同) 標準予防策と個人防護具 (PPE) の着脱、消毒滅菌、無菌操作、グラム染色と標本観察、培地作製と培養 (好気培養、炭酸ガス培養、嫌気培養)、平板培地接種、菌液調整、各種培地接種、菌検査、発育集落の観察</p> <p>(5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、182 梶原 亮佑/4回) (共同) 基本的な菌種鑑別検査 (溶血性、カタラーゼ試験、コアグラウゼテスト、オキシダーゼ試験、確認培地での生化学性状観察)</p> <p>(5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、180 宮本 直樹/2回) (共同) 薬剤感受性検査と判定 (ディスク法)</p>	オムニバス方式・共同
	微生物検査学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業の前半は、微生物検査に必要な基本操作、菌種鑑別検査の原理、結果、臨床的意義を学ぶことにより、細菌・真菌の同定および薬剤感受性の解析に必要な基礎知識を修得する。授業の後半は、ウイルスの特徴と分類、代表的なウイルス感染症を学び、ウイルス性状に応じた分離・同定法についても学習する。また、チーム医療として、感染制御チーム (Infection control team: ICT) の活動と臨床検査技師の役割についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(5 棚町 千代子/16回) 総論、染色法、培地法、培地 (分離培地、選択培地等) の作製法、同定検査 (通気性、通性嫌気性グラム陽性球菌、グラム陽性桿菌、グラム陰性桿菌、通性嫌気性グラム陰性桿菌、好気性グラム陰性桿菌、微好気性グラム陰性らせん菌、偏性嫌気性菌、真菌の分類・病原性と同定検査、抗菌薬と薬剤感受性検査、材料別検査法 (血液、髄液、体腔液など無菌材料、尿、咽頭・鼻腔、喀痰、便など常在菌の存在する材料)、遺伝子検査 (PCR法、LAMP法)、チーム医療 (ICT)</p> <p>(3 武谷 三恵/3回) 全身感染症の病態生理 (敗血症の成立、敗血症ショック、多臓器機能障害)</p> <p>(82 柏木 孝仁/4回) ウイルスの性状と分類、ウイルスの検査、消毒、予防、治療と関係法規、DNAウイルスによる疾患、RNAウイルスによる疾患</p>	オムニバス方式
	微生物検査学実習Ⅱ	<p>本授業の形態は、実習とする。【概要】本実習では、「微生物検査学実習Ⅰ」「微生物検査学」にて修得した知識と手技を用いて、細菌、真菌、ウイルスの培養と同定を行う。培養は細菌に適した条件下 (好気培養・炭酸ガス培養・嫌気培養) で行い、同定検査ではグラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌の鑑別、薬剤感受性検査では各抗菌薬を用いて結果を判読し、更に薬剤耐性菌の検出方法まで学ぶ。材料別検査ではそれぞれの材料で検出される起炎菌について学び、菌の検出方法を実践的に学ぶ。これらはいずれも実臨床で必要とする手法である。また、培養細胞を用いてウイルスの分離・同定を行い、ウイルス同定のための特殊な手技を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(5 棚町 千代子、13 吉野 千代、180 宮本 直樹/4回) (共同) 微生物学的検査の基本操作、グラム染色標本の作製と観察、グラム陽性球菌の鑑別同定、グラム陰性桿菌の血清型別検査</p> <p>(5 棚町 千代子、13 吉野 千代、184 田代 尚崇/4回) (共同) グラム陰性球菌、グラム陰性桿菌 (通性嫌気性菌) の鑑別同定</p> <p>(5 棚町 千代子、13 吉野 千代、181 大坪 直広/2回) (共同) グラム陽性桿菌 (抗酸菌等) の鑑別同定</p> <p>(5 棚町 千代子、13 吉野 千代、183 堀田 吏乃/2回) (共同) グラム陰性桿菌 (好気性菌) の鑑別同定</p> <p>(5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、184 田代 尚崇/2回) (共同) 偏性嫌気性菌の鑑別同定</p> <p>(5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、183 堀田 吏乃/4回) (共同) グラム陰性桿菌 (微好気性菌) の鑑別同定、真菌の分類と同定 (酵母様真菌、糸状菌)</p> <p>(5 棚町 千代子、⑤ 糸山 貴子、180 宮本 直樹/4回) (共同) 薬剤感受性検査 (ディスク法・微量液体希釈法)、薬剤耐性菌と検査法、材料別検査法と結果の解釈と評価</p> <p>(82 柏木 孝仁、5 棚町 千代子、15 福満 千容/8回) (共同) ウイルス：培養細胞の継代と封入体による同定、培養細胞を用いたウイルスの培養、ウイルス学的診断 (TCID50法)、血清学的診断 (HA・HI法) ※&lt;82 柏木 孝仁&gt;は実習の統括、実習内容の概説、指導を行い、&lt;5 棚町 千代子&gt;と&lt;15 福満 千容&gt;は統括者と連携して指導を行い、実習の円滑な遂行を図るとともに実習中の感染防止対策を徹底させる。</p>	オムニバス方式・共同

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">臨床検査学の基本 専門科目</p>	<p style="text-align: center;">生理検査学 I</p>	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、人体の生理機能のうち、循環、呼吸、神経の3つの主要な機能を評価する生理検査について学ぶ。各機能をしらべる生理検査の種類とその測定原理、測定方法について学習する。また、検査結果の定量的および定性的な評価については、各講師の専門分野の臨床経験を踏まえた講義を通じて、特に正常所見を習得し、その意義を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全23回)</p> <p>(9 八木 朝子/5回) 生理検査学総論として、生理検査項目、業務範囲、コミュニケーション能力について概説する。また総合的な生理検査として終夜睡眠ポリグラフ検査についての概説と、生理検査の医療現場における多様なニーズと将来性について概説する。</p> <p>(101 木下 隆/3回) 呼吸器系検査で、呼吸器の解剖、構造と機能、ガス代謝の基本的な肺機能の解剖と病態について、検査では、スパイロメトリー、特殊肺機能検査(残気量、肺コンプライアンス、呼吸抵抗、クロージングボリューム曲線)について概説する。</p> <p>(105 松岡 昌信/2回) 呼吸器系検査で、ガス交換能に関する検査について概説する。</p> <p>(6 真茅 孝志/4回) 呼吸機能を評価する血液ガス検査の測定方法とその評価について概説する。また経皮的ガス分圧測定法の測定方法とその評価についても概説する。循環器系検査である血圧脈波検査の測定方法とその評価方法についても概説する。</p> <p>(131 高橋 基彌/2回) 循環器系検査である心電図の講義にて、心臓の解剖と心電図生成の電気現象について概説する。また運動負荷心電図、ホルター心電図については測定法と評価法を概説する。</p> <p>(141 中野 仁晴/1回) 循環器系検査である心電図の講義にて、心電計の構造と誘導法について概説する。</p> <p>(142 中尾 英智/1回) 循環器系検査である心電図の講義にて、波形の計測方法、正常心電図について概説する。</p> <p>(143 芝尾 昂大/1回) 循環器系検査である心音図検査の講義にて、心音の測定方法と評価法について概説する。</p> <p>(80 安元 眞吾/2回) 脳機能検査である脳波検査の講義にて、脳の解剖、脳波発現機序、脳波計構造の概説と、波形の評価として脳波の基礎律動と正常脳波の概説をする。</p> <p>(106 佐藤 守/2回) 脳機能検査である脳波検査の講義にて、電極配置、導出法、記録法についての概説と、誘発電位検査の講義にて、測定法と評価法について概説する。</p>	<p style="text-align: center;">オムニバス方式</p>
	<p style="text-align: center;">生理検査学実習</p>	<p>本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】本実習は、(1)循環、呼吸、神経・筋機能を測定する各種生理検査の実践、(2)一次救命処置(BLS)の実技訓練で構成する。(1)各種生理検査の実践では、「生理検査学I」で学んだ検査の測定方法を理解した上で、実際の装置を用いて、精度の高い検査結果を得るための正しい手技を学ぶ。学生自身が被験者となって検査所見を取得し、その結果の評価を行い、正常な検査所見を理解する。また、被験者となることで患者心理などを理解し、検査者としての患者への配慮や接遇を学ぶ機会とする。</p> <p>各実習は以下のように進め、項目別に臨床経験豊富な複数名の教員で少人数への指導を行う。</p> <p>【実施方法】</p> <p>(1)各種生理検査の実践：①循環機能検査、②呼吸機能検査、③脳波検査/睡眠ポリグラフ検査、④誘発電位検査、⑤筋電図検査と5つの大項目に分け、オムニバス形式で進める。各項目につき講義(ガイダンス1コマ)と実習(実技2~4コマとまとめ1~2コマ)を1セットとする。学年を1クラスとして一斉に行い、小グループ単位で機器を用いた測定と評価を行わせる。</p> <p>(2)BLSの実技訓練：学年を2クラスに分けて各クラスに1コマずつ実施する(教員はのべ2コマ担当する)。授業では、ガイダンスの後、BLSシミュレーターを用いて全学生に実技を体験させ、指導する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(187 中島 雅子、9 八木 朝子/1回) (共同) ①循環機能検査実習のガイダンス：心電図検査、ABI</p> <p>(187 中島 雅子、9 八木 朝子、6 真茅 孝志、189 貞元 祐二/4回) (共同) 標準12誘導心電図、ABIの実際</p> <p>(9 八木 朝子、189 貞元 祐二/1回) (共同) 循環機能検査実習のまとめ</p> <p>(188 大鶴 翔一、9 八木 朝子/1回) (共同) ②呼吸機能検査実習のガイダンス：スパイロメトリー、特殊肺機能検査</p> <p>(188 大鶴 翔一、6 真茅 孝志、9 八木 朝子、189 貞元 祐二/4回) (共同) スパイロメトリーの実際(肺活量、分時換気量、1秒率)</p> <p>(188 大鶴 翔一、9 八木 朝子、185 小森 真由美、189 貞元 祐二/2回) (共同) 特殊肺機能検査の実際(機能的残気量、肺拡散能力、クロージングボリューム)</p> <p>(9 八木 朝子、189 貞元 祐二/1回) (共同) 呼吸機能検査実習のまとめ</p> <p>(47 高須 修、9 八木 朝子、① 西 昭徳、② 有永 照子、③ 真田 咲子、3 武谷 三恵、189 貞元 祐二/1回) (共同) 救急蘇生実習(BLSの実技訓練) ※&lt;47 高須 修&gt;がBLSのガイダンスを行い、実習を統括、指導する。&lt;① 西 昭徳&gt;、&lt;② 有永 照子&gt;、&lt;③ 真田 咲子&gt;、&lt;3 武谷 三恵&gt;、&lt;9 八木 朝子&gt;、&lt;189 貞元 祐二&gt;は統括者と連携して、実技訓練を指導する。</p> <p>(9 八木 朝子、186 尊田 夕香里/1回) (共同) ③脳波検査・睡眠ポリグラフ検査実習のガイダンス</p> <p>(9 八木 朝子、186 尊田 夕香里、185 小森 真由美、189 貞元 祐二/4回) (共同) 脳波検査・睡眠ポリグラフ検査の実際</p> <p>(9 八木 朝子、189 貞元 祐二/2回) (共同) 脳波検査・睡眠ポリグラフ検査のまとめ</p>	<p style="text-align: center;">オムニバス方式・共同 講義10時間 実習20時間</p>

臨床検査学の基本	専門科目	画像検査学Ⅰ	<p>本授業の形態は講義とし、一部実習も含まれる。【概要】本授業では、超音波画像検査の基礎的事項と臓器別の検査所見の特徴を学修する。さらに、疾患の病態を理解しながら画像の解析法と画像所見の特徴についてまでを学んだ後、実際に超音波検査機器を用いて実習を行い、学生自身が被検者となって目的とする画像を描出しながら理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(191 伊藤 慎一郎/4回) 講義にて、超音波の基礎(原理、装置と操作)、心臓・血管の検査・画像の解析法、主な心疾患、血管疾患における画像所見の特徴について概説する。</p> <p>(191 伊藤 慎一郎、② 有永 照子/2回) (共同) 実習にて、心臓、血管の超音波検査の実演、実技の解説と指導を行う。</p> <p>(144 中野 聖士/1回) 講義にて、主に腹部・体表の超音波検査の原理、装置と操作について概説する。</p> <p>(48 黒松 亮子/2回) 講義にて、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓の検査・画像の解析法、造影超音波の特徴と方法、主な肝臓、胆嚢、膵臓疾患における画像所見の特徴について概説する。</p> <p>(190 福島 奈央/2回) 講義にて、消化管、膀胱、前立腺、子宮付属器、乳房、甲状腺、頸部の検査・画像の解析法、主な疾患の特徴について概説する。</p> <p>(190 福島 奈央、② 有永 照子/4回) (共同) 実習にて、肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、消化管、子宮付属器、甲状腺、頸部の超音波検査の実演、実技の解説と指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義18時間 実習12時間
		画像検査学Ⅱ	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】現代の医療に不可欠な画像診断法の一つである磁気共鳴画像(MRI)は、臨床検査技師が携わることのできる検査である。また、2022年の法改正により、臨床検査技師の新たな業務として、医師が実施する消化管内視鏡検査において消化管病変部の組織の一部採取できるようになった。本授業では、これら2つの検査方法について学習する。MRI検査では、原理、方法、適応、得られる画像の特徴などの基礎を、消化管内視鏡検査では、組織検体の採取を含めた検査の一連の概要と方法、および医療安全について学ぶ。4年次の臨地実習ではこれらの検査を実際に見学する機会があることを踏まえ、検査に携わる際に必要な知識と考え方を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(② 有永 照子/1回) 画像検査学Ⅱのオリエンテーション</p> <p>(49 内山 雄介/2回) MRIの原理、磁場とラジオ波、禁忌、撮像法の種類(SE、GE、IR法)と強調像の特徴</p> <p>(83 長田 周治/2回) MRIにおける代表的な組織(水、脂肪、筋肉など)の信号、アーチファクト</p> <p>(192 鈴木 真/3回) MRIの利点と欠点(CTとの比較)、MRIの有用な部位と疾患、MRIの造影剤について</p> <p>(145 向笠 道太/1回) 消化管内視鏡検査の原理、方法と医療安全</p> <p>(146 大内 彬弘/1回) 消化管内視鏡検査での組織検体の採取手技</p>	オムニバス方式
		検査管理総論	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】2年次までは、臨床検査学の各領域について、検査の原理、方法、データの取得と結果の評価・解釈、適応となる疾患・病態を個別に学んできた。本授業では、医療機関において各臨床検査が常に適切に提供されるために、検査部門がどのような体制、手段、配慮を行っているのかについて学ぶ。また、ここであらためて臨床検査技師としての使命と役割について理解を深める。各学習項目についての専任教員による講義の後に、特定機能病院における各種臨床検査を担い、臨床検査に関する国際規格ISO15189認定を取得している久留米大学病院臨床検査部の体制と最新の取り組みについて学ぶ機会を持つ。4年次の臨地実習で検査体制についても自ら学びとる視点を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(5 棚町 千代子、3 武谷 三恵/1回) (共同) 臨床検査技師の役割の変遷と使命</p> <p>(5 棚町 千代子/3回) 臨床検査の意義と検査体制、臨床検査部門(検体検査)における業務・組織・危機管理・物品管理、検体の取扱いと保存、検査の受付と報告</p> <p>(5 棚町 千代子、6 真茅 孝志/1回) (共同) 臨床検査における感染対策と安全管理</p> <p>(9 八木 朝子/2回) 臨床検査部門(生体検査)における業務・組織・危機管理・物品管理、臨床検査における職業管理と情報・人事・財務管理</p> <p>(193 川野 祐幸/1回) 特定機能病院における臨床検査部門の組織と運営</p> <p>(11 田代 恭子/1回) 検査の精度認証制度と法規制</p> <p>(6 真茅 孝志、11 田代 恭子/3回) (共同) 検査の精度管理と品質保証(概略、検査値の単位、誤差と不確かさ、精度管理法)</p> <p>(194 早田 峰子/3回) ISO15189取得施設における精度管理の実際(クオリティマネジメントの概要、内部・外部精度管理の評価、精度保証と医療法改正)</p>	オムニバス方式・共同(一部)
チーム医療と臨床検査学の実践に向けて				

チーム医療と臨床検査学の実践に向けて 専門科目	医療安全管理学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】医療では、患者の安全確保を最優先に考え、さらには医療行為に伴うリスクから医療従事者を守る必要がある。医療安全のための臨床検査技師の取り組みとして、以下が常に求められる：①適切な検体の取扱いと結果のフィードバック、②患者からの検体採取や生体検査における有害事象の発生防止と初期対応、③職種に関わらず、院内の必要な場面での患者、家族、職員へのリスク発生防止と初期対応。本授業では、医療におけるリスクマネジメントの考え方と知識、および適切な医療安全管理を実践するために必要な医療連携体制について学ぶ。授業の後半には、臨床検査技師が実施する各種検体採取に必要な医療安全について学ぶ。本授業を通して、医療安全を第一に、医療チームの一員として役割を果たすための心構えを具体的に修得することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式／全9回)</p> <p>(51 横山 晋二／3回) 医療安全管理の概念とその必要性、エラーの管理、インフォームドコンセントの必要性と方法、インシデント報告制度、個人情報の保護、インシデントの実例と対策、チーム医療における臨床検査技師の役割(患者急変時とパニック値発生時の対応)</p> <p>(50 渡邊 浩／1回) 感染制御と医療安全、院内感染、感染予防のあり方、感染制御チーム(Infection Control Team: ICT)</p> <p>(2) 有永 照子／4回) 臨床検査技師が実施する検体採取の種類、根拠となる法律、静脈採血の方法と安全管理、静脈路確保における安全管理、体液の組成と電解質輸液の種類(静脈路確保における安全管理)、微生物検査目的の検体採取の方法と安全管理(鼻腔・咽頭ぬぐい液、鼻腔吸引、気管カニューレからの喀痰吸引)</p> <p>(84 石井 文人／1回) 微生物検査目的の検体採取の方法と安全管理(皮膚表在組織病変部)</p>	オムニバス方式
	医療安全・検体採取実習	<p>本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】本実習では、臨床検査技師の業務である各種検体採取法、静脈路の確保と電解質輸液への接続、直腸肛門内圧測定のための圧トランスデューサーの挿入の実技訓練を行う。各実習冒頭の講義では「医療安全管理学」で学んだ知識も活用しながら、手法ごとに実施方法、医療安全、患者への配慮を具体的に学修する。各実技訓練ではシミュレーターを使用するが、静脈採血と耳朶からの毛細管採血のみ、実習説明後に採血行為への同意書を提出した学生は、教員の指導下に学生同士の採血まで行う。また、本実習では、各手技を適切、安全に実施する手法にとどまらず、必要な器具や消耗品の管理・取扱い・廃棄法、および患者への配慮とコミュニケーションを含めた一連のプロセスを、反復練習によって修得することを目標とする。行為に伴う有害事象防止の意識と対策を徹底して身に付けるとともに、発生時の初期対応についても学ぶ。</p> <p>本実習では、一部の内容のみ、2クラスに分けて別の時間帯に開講する。</p> <p>【実施方法】</p> <p>(1) 分割実施：静脈採血(8回*)では、学年を2クラス(1クラス約40名)に分けて各クラスを別の時間帯に開講する(教員はのべ16回担当する)。</p> <p>(2) 一斉実施：静脈採血以外の実技についても、一度に実施させるのは約40名とする。但しこれらは約半数が実技訓練をしている間、残り半分は課題に取り組むこととし、途中で入れ替えることにより同一授業時間内に学年全体の実習を終えることができるため、学年を1クラスとして実施(授業回数と教員の担当回数は一致)する。</p> <p>(オムニバス方式／全18回)</p> <p>(2) 有永 照子／3回) 講義にて、実習オリエンテーション、臨床検査技師が採血可能な部位、静脈採血における標準採血法の各手順とその理由、毛細管採血法の適応、耳朶採血の各手順およびその理由、各種採血における医療安全について、概説する。</p> <p>(2) 有永 照子、5 棚町 千代子、10 関 律子、13 吉野 千代、⑤ 糸山 貴子／8回*) (共同) 実習にて、採血器具の取扱いと廃棄方法を指導した後、引き続き、肘窩からの静脈採血(前半：採血針付きホルダーを用いた真空採血、後半：翼状針付きホルダーを用いた真空採血)を指導する。各手技について概説、実演を行った後、5台のシミュレーターを用いて実技訓練を指導する。シミュレーターは交代で使用し、使わない時には学生同士で被採血者への声かけ、脈血帯の巻き方、穿刺部位の選び方など、穿刺以外の一連の動作の練習をさせる。また、各種採血管、太さの異なる注射針を観察させ、用途についても学修させる。</p> <p>*本実習のみ、分割実施とする。</p> <p>※&lt;2) 有永 照子&gt;は、実習を統括、指導する。学生が対人採血を行う際には、&lt;5 棚町 千代子&gt;、&lt;10 関 律子&gt;、&lt;13 吉野 千代&gt;、&lt;⑤ 糸山 貴子&gt;(採血業務の経験あり)のいずれかが監督・指導する。実習室にはベッドを配置し、座位と臥位での採血を選択可能にするとともに、気分不良者が発生した場合にはすぐにベッド上で安静を取らせ、&lt;2) 有永 照子&gt;が経過観察を行い適切に対処する。</p> <p>(2) 有永 照子、5 棚町 千代子、10 関 律子、13 吉野 千代、⑤ 糸山 貴子、① 西 昭徳、3 武谷 三恵／2回) (共同) シミュレーターを用いて、採血に伴う静脈路の確保と電解質輸液への接続の実技訓練を行う。実習の冒頭には講義を行い、静脈路確保の方法、輸液バックと注入路の操作方法について、感染や空気混入等の防止対策などの注意点を含めて概説する。実技でもこの2点に焦点を当てて修得させ、特に、静脈路確保時の輸液量の調節法や点滴ルートの接続が外れた時の問題点と対処法を体験的に理解させる。また、本実習を通じて、輸液を行っている上肢から採血をしてはいけない理由について考察させる。</p> <p>※実習の統括、概説を&lt;2) 有永 照子&gt;、静脈路確保から輸液の接続までの手技を&lt;5 棚町 千代子&gt;、&lt;10 関 律子&gt;、&lt;13 吉野 千代&gt;、&lt;⑤ 糸山 貴子&gt;、&lt;① 西 昭徳&gt;、&lt;3 武谷 三恵&gt;が指導する。</p> <p>(2) 有永 照子、5 棚町 千代子、10 関 律子、13 吉野 千代、⑤ 糸山 貴子／1回) (共同) 実習にて、耳朶からの毛細管採血の実演と概説、指導を行う。教員の監督下、同意書を提出した学生同士で実施させる。採取した検体を用いてマイクロヘマトクリット法を行い、各自のヘマトクリット値を測定するとともに原理と意義について学修させる。</p> <p>(85 恒松 佳代子、107 前野 里子、② 有永 照子、① 西 昭徳、3 武谷 三恵／4回) (共同) 微生物学的検査目的の、鼻腔・咽頭拭い液の採取、鼻腔吸引液・気管カニューレからの喀痰採取、皮膚表在組織病変からの検体採取、肛門からの糞便採取、および直腸肛門機能検査における圧トランスデューサーの挿入について、シミュレーターによる実技訓練を指導する。講義と実習の組み合わせで上気道と気管カニューレからの各種検体採取(2回)、皮膚病変と肛門からの検体採取および直腸肛門内圧測定(2回)で実施する。実施時の患者への配慮、声かけと体位の取らせ方は、学生同士で練習させる。</p> <p>※&lt;85 恒松 佳代子&gt;、&lt;107 前野 里子&gt;は講義、実習の統括と指導を行い、&lt;2) 有永 照子&gt;、&lt;① 西 昭徳&gt;、&lt;3 武谷 三恵&gt;は統括者と連携して指導する。</p>	オムニバス方式・共同(一部) 講義10時間 実習26時間

チーム医療と臨床検査学の実践に向けて 専門科目	薬品管理学	<p>本授業の形態は講義とし、一部実習が含まれる。【概要】化学薬品を取り扱う場合には、化学物質の特徴と有害性、法規制の有無を踏まえて適切に保管、使用、廃棄を行う必要がある。本授業では、安全に試薬を管理・使用するための知識を身に付けるため、毒物劇物取締法、毒物劇物の性質と取扱い方法などについて、毒物劇物取扱者試験の試験科目に準拠した内容を学ぶ。実習では、化学薬品漏洩による有害事象発生の予防策と初期対応について学び、本学科の学内実習用に備えられている薬品群について、管理と取扱い、および廃棄方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(195 樋口 恭子/8回) 毒物劇物取締法の目的、毒物劇物の製造・輸入・販売、毒物劇物取扱責任者、毒物劇物の取扱いと規則、毒物劇物の譲渡・販売時の手続き、毒物劇物の廃棄・運搬時に対する規則、基礎科学、毒物劇物の性質と毒性、毒物劇物の鑑別と廃棄方法について、講義にて概説する。</p> <p>(13 吉野 千代、15 福満 千容/2回) (共同) 化学薬品取扱い時の有害事象発生の予防と初期対応を概説し、学内実習用の薬品の取扱い、在庫管理について具体的に指導する。〈13 吉野 千代〉は毒物劇物取扱責任者の資格を有し「臨床化学検査学実習」にて試薬作成の指導を担当する立場から、〈15 福満 千容〉は同資格を有し「病理検査学実習」で試薬の取り扱いを指導する立場から、本実習指導を行う。</p>	オムニバス方式・共同 (一部) 講義16時間 実習4時間
	ゲノム医療・先端医学	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業では、ゲノム医療をはじめとする先端の医療や医学研究の話題に触れる。また、現役臨床検査技師で研究活動にも取り組んでいる先駆者の体験談を聴く機会を持つことにより、臨床検査の専門家としての将来像（可能性）について視野を広げることが目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全11回)</p> <p>(53 秋葉 純/1回) ゲノム医療と病理組織診断との関わり</p> <p>(197 長峯 理子/1回) ゲノム医療と細胞診との関わり</p> <p>(108 植田 浩介/1回) 泌尿器科領域（腎、尿路、生殖器）におけるゲノム医療</p> <p>(196 橋本 賢勇/1回) 研究、ゲノム治療選択に重要視されるビッグデータと臨床検査技師との関わり</p> <p>(26 太田 啓介/1回) 先端バイオイメージング</p> <p>(147 井形 幸代/1回) 米国における臨床検査技師の働き方 ～心臓ソノグラファーとしての臨床検査業務と研究活動～</p> <p>(25 小椋 義俊/1回) 病原性大腸菌のゲノム科学</p> <p>(52 山本 健/1回) ゲノム・エピゲノム解析による疾患発症予測</p> <p>③ 真田 咲子/1回 固形癌微小環境の探索と手法</p> <p>(46 渡邊 順子/1回) 癌治療と遺伝カウンセリング</p> <p>(16 内村 直尚/1回) 睡眠医療の最前線</p>	オムニバス方式
	チーム医療演習	<p>本授業の形態は、演習とする。【概要】4年次は「臨地実習」にて実臨床の場で臨床検査学の実践を学ぶとともに、卒業、臨床検査技師として社会に参画するための最終的な準備を行う期間である。臨地実習においては、学生といえども一医療従事者としての自覚を持った態度と行動が必須として求められる。本授業では、まず、社会人としての他者への接し方、対面や文書、ITなど各手段における適切なコミュニケーションの実践方法や注意点を再考した後、授業の後半では、適切な患者対応、医療安全を図るための多職種とのコミュニケーションの在り方について、具体的な場面を想定したロールプレイやグループ学習を通じて学ぶことを目標とする。後半部分は、看護学科4年生との合同授業とする。</p> <p>(オムニバス方式/全8回)</p> <p>(59 酒井 佳世、5 棚町 千代子/4回) (共同) 社会人としてのマナーと思いやり、言葉遣いや身だしなみ、対人および遠隔での面談時の留意点、電話、メールや文書、SNSなどでのコミュニケーションの留意点、などについて、具体的な事例（好ましい例、避けるべき例）を挙げて概説し、実技指導や学生の作成した文書への指導を行う。 ※〈59 酒井 佳世〉が統括者となり、一般的な社会人として、あるいは患者やその家族の視点での事例を概説する。〈5 棚町 千代子〉は、臨地実習の学生の事例、臨床検査技師としての患者対応やチーム医療において遭遇する事例を挙げ、臨床検査の場での応用への意識を向けさせ、授業後半の回に向けた導入を行う。</p> <p>(5 棚町 千代子、9 八木 朝子、54 益守 かづき、② 有永 照子/4回) (共同) ①身体検査や検体採取時の患者対応を想定したロールプレイを、学生間で実施させる。通常への対応だけでなく、患者のクレームや体調不良発生などへの対応についても行い、各トラブル発生時に取るべき考え方や行動の優先順位について、小グループ内、グループ間で意見を出し合い、考えさせる。 ②検査部門での付添看護師と臨床検査技師の間での患者情報の共有の仕方の留意点について、模擬症例を提示して考えさせる。 ③検査結果に関する報告、確認を臨床検査技師から医師へ行う場合のロールプレイを行い、留意点についても考えさせる。 ※臨床検査技師の立場から〈5 棚町 千代子〉、〈9 八木 朝子〉が、看護師の立場から〈54 益守 かづき〉が、医師の立場から〈② 有永 照子〉が指導する。</p>	オムニバス方式・共同

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">チーム医療と臨床検査学の実践に向けて 専門科目</p>	<p>臨地実習前技能修得到達度評価</p>	<p>本授業の形態は実習とし、一部講義も含まれる。【概要】本授業では、臨地実習前までに学生各自が知識・技能・態度を備え、臨地実習において『臨地実習で行う行為』が実施できるようになるために、技能修得到達度評価についての説明を行い、必要な学修・訓練指導を行ったうえで評価試験を実施する。本評価試験（実技・筆記）に合格した者のみ臨地実習に参加することができるため、満たなかった評価項目については再訓練指導・評価を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(13 吉野 千代、5 棚町 千代子/1回) (共同) 本授業の目的と実施方法のガイダンス</p> <p>(9 八木 朝子/1回) 標準12誘導心電図の評価内容の概説</p> <p>(6 真茅 孝志/1回) スパイロメトリーの評価内容の概説</p> <p>(10 関 律子/1回) 血液検査の評価内容（血球計数検査、血液塗抹標本作製と白血球分画の観察）の概説</p> <p>(⑤ 糸山 貴子/1回) 一般検査の評価内容（尿定性検査、尿沈査検査）の概説</p> <p>(11 田代 恭子/1回) 輸血検査の評価内容（ABO血液型検査、RhD血液型検査）の概説</p> <p>(13 吉野 千代/1回) 生化学検査の評価内容（ピペット操作、吸光度計を用いた標的物質の濃度測定、遠心分離操作）の概説</p> <p>(5 棚町 千代子/2回) 感染対策と微生物検査の評価内容（手指衛生・感染対策、Gram染色、無菌操作・分離培養）の概説、コミュニケーションと患者接遇の評価内容の概説</p> <p>(15 福満 千容/1回) 病理検査の評価内容（顕微鏡調整、病理組織標本の作製）の概説</p> <p>(13 吉野 千代、9 八木 朝子、6 真茅 孝志、10 関 律子、⑤ 糸山 貴子、11 田代 恭子、5 棚町 千代子、15 福満 千容/16回) (共同) 各教員の担当項目に、学生を分散、ローテーションさせ、①技能修得訓練の指導、②到達度評価（実技・筆記試験）の実施、③不合格者への再訓練と再評価を行う。</p> <p>(9 八木 朝子、6 真茅 孝志/1回) (共同) 標準12誘導心電図、スパイロメトリーの評価結果の総評と解説</p> <p>(10 関 律子、⑤ 糸山 貴子/1回) (共同) 血液検査、一般検査の評価結果の総評と解説</p> <p>(11 田代 恭子、13 吉野 千代/1回) (共同) 輸血検査、生化学検査の評価結果の総評と解説</p> <p>(15 福満 千容、5 棚町 千代子/1回) (共同) 病理検査、感染対策と微生物検査、コミュニケーションと患者接遇の評価結果の総評と解説</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部) 講義28時間 実習32時間</p>
	<p>臨地実習</p>	<p>本授業の形態は、臨地実習（臨床検査を提供している学外の医療施設等での実習）とする。【概要】本授業では、学内で3年間修得した知識をもとに実際の医療現場での見聞と体験を通じて臨床検査の知識と技術を実践で活かすために必要な能力を身に付け、社会に参画・貢献できる資質と態度を育成することを目的とする。実習の内容および臨地実習施設は、『臨床検査技師等に関する法律施行令第18条第4号に定める厚生労働大臣の指定する科目』の基準を満たすものとし、11単位中3単位は生理学的検査（生理検査学および画像検査学）に関する実習とする。残りの8単位には、血液検査学、病理検査学、生化学検査学、尿糞便等一般検査/寄生虫検査学、微生物検査学、輸血・移植検査学、免疫検査学、臨床検査総合管理学、医療安全管理学に関する実習を行う。また、臨地実習において学生に実施または見学させるべき行為等が守られるよう、学生毎に臨地実習施設の調整を行う。</p>	<p>共同</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">チーム医療と臨床検査学の実践に向けて 専門科目</p>		<p style="text-align: center;">臨床検査医学特論</p> <p>本授業の形態は、講義とする。【概要】4年次後期は、卒業時に臨床検査技師の国家資格を取得し、医療や医学研究の分野での実践を始めるための最終的な準備期間であり、各自の主体性にもとづき、これまで学内や臨地実習で学んできた内容を整理、統合する時期である。本授業では、これらの自学や学生同士での学び合いを円滑に進めるために、臨床検査学の各領域の総括講義をオムニバス形式で実施する。また、久留米大学病院臨床検査部の臨床検査技師を講師に迎え、各領域の臨床検査の最新の動向を踏まえた考え方や検査法についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全60回)</p> <p>(5) 糸山 貴子／2回) 一般検査学</p> <p>(194 早田 峰子、5 棚町 千代子／2回) (共同) 検査管理総論</p> <p>(3 武谷 三恵／3回) 臨床医学総論</p> <p>(9 八木 朝子／3回) 生理検査学 (循環機能、神経機能)</p> <p>(6 真茅 孝志／5回) 生理検査学 (循環機能、呼吸機能)、医用工学概論</p> <p>(101 木下 隆／1回) 生理検査学 (呼吸機能)</p> <p>(81 山田 圭／2回) 生理検査学 (神経・筋機能)</p> <p>(191 伊藤 慎一郎／4回) 画像検査学 (心臓・血管の超音波検査)</p> <p>(2) 有永 照子／2回) 臨床医学総論、画像検査学 (腹部の超音波検査)</p> <p>(13 吉野 千代、198 浜口 拓郎／5回) (共同) 臨床化学検査学</p> <p>(3) 真田 咲子／2回) 病理学</p> <p>(15 福満 千容／2回) 病理検査学</p> <p>(10 関 律子、170 垂水 俊樹／2回) (共同) 血液検査学 (血液検査)</p> <p>(10 関 律子、171 岡田 和大／2回) (共同) 血液検査学 (凝固検査)</p> <p>(10 関 律子／3回) 血液検査 (血球形態)</p> <p>(5 棚町 千代子／3回) 微生物検査学</p> <p>(11 田代 恭子、175 牟田 誠矢／2回) (共同) 免疫検査学</p> <p>(11 田代 恭子、179 藤好 麻衣／2回) (共同) 輸血・移植検査学</p> <p>(163 平 誠一／1回) 医療関連法規</p> <p>(32 谷原 真一／1回) 公衆衛生学 (疫学と予防医学)</p> <p>(72 中尾 元幸／1回) 公衆衛生学 (衛生統計、感染症法)</p> <p>(99 山内 圭子／1回) 公衆衛生学 (母子保健、学校保健、精神保健)</p> <p>(121 桑木 光太郎／1回) 公衆衛生学 (社会保障、国際保健)</p> <p>(98 森 美穂子／2回) 公衆衛生学 (環境保健、産業保健)</p> <p>(82 柏木 孝仁／6回) 情報科学 (コンピュータ、ネットワークの仕組み)</p>	<p style="text-align: center;">オムニバス形式・共同 (一部)</p>
--	--	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門科目</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">応用選択コース</p>	<p>本授業の形態は、講義とする。【概要】本授業は、科目区分『応用選択コース』のガイダンスである。3年次には4つの応用選択コースから1つを選択し、通年で特定の領域における応用学修を体験することになる。「バイオサイエンス応用」、「データサイエンス応用」では主に研究活動を体験する。「マネジメントサイエンス応用」では診療情報管理の実際を深く学び、3年次2月には認定資格試験の受験により診療情報管理士の資格取得を目指す。「臨床検査応用」では、各専任教員の指導下に臨床検査学の特定の領域にて実践的な発展学修を行うとともに研究活動も体験する。4年次には「卒業研究」にて各自が学んできたことを成果として発表することとする。本授業では、①3年次「応用」科目と4年次「卒業研究」の履修方法の説明、②学生が興味ある分野を選ぶために専任教員から各コースの概要紹介、③研究倫理と臨床研究に関するガイダンスを行う。</p> <p>(オムニバス方式／全14回)</p> <p>(10 関 律子／3回)        応用選択コースの概略と履修方法、研究倫理（倫理綱領、行動規範、成果の発表方法、研究費の適切な使用など科学者としての心得）、        「臨床検査応用」血液・腫瘍分野での研究</p> <p>(2) 有永 照子／1回        「臨床検査応用」消化器疾患における研究</p> <p>(5) 糸山 貴子、3 武谷 三恵／1回（共同）        「臨床検査応用」細胞・組織（泌尿生殖器系）の構造と機能に関する解析と評価</p> <p>(12 小原 仁／1回)        「マネジメントサイエンス応用」診療情報管理士の資格取得と臨床への応用</p> <p>(3) 真田 咲子、15 福満 千容／1回        「臨床検査応用」病理細胞診断学と細胞検査士</p> <p>(5) 棚町 千代子、11 田代 恭子／1回（共同）        「臨床検査応用」微生物検査学の研究と卒後の資格 / 質量分析学における研究</p> <p>(4) 伴 匡人／1回        「バイオサイエンス応用」分子生物学を駆使した生命現象の解明と、研究への応用</p> <p>(7 室谷 健太／1回)        「データサイエンス応用」</p> <p>(6 真茅 孝志／1回)        「臨床検査応用」臨床検査の現場で実践できる医療機器の保守管理</p> <p>(9 八木 朝子／1回)        「臨床検査応用」睡眠生理学の臨床と研究</p> <p>(13 吉野 千代、① 西 昭徳／1回）（共同）        生化学検査学における研究 ～日常の学修から生まれる疑問を探究へ～</p> <p>(199 金子 富美／1回)        レギュラトリーサイエンスと臨床研究、研究開始前に必要な手続き</p>	<p>オムニバス方式・共同（一部）</p>
	<p>本授業は、応用選択コース（選択必修）の1つである。【概要】本授業では、細胞・遺伝子・タンパク質の機能解析や、胚・細胞培養法、遺伝子工学技術などを実際に体験し、これまでに学んだ知識や実験手法の理解を深める。教員指導のもと、学生各自が研究課題を持ち、研究計画の立案方法や、データベースからの情報収集方法、解析結果の評価方法などを学び、科学的な根拠に基づく思考力、問題解決力を修得する。さらにバイオサイエンス研究や先端医療診断に携わる者が必ず身に付けておくべき生命倫理や研究倫理を修得する。</p> <p>(担当者の指導領域)</p> <p>(4) 伴 匡人)        蛋白質化学や生物物理学手法を用いて、タンパク質機能の詳細解析を目的とした研究課題「タンパク質による生体膜変性機構の解析」、「タンパク質会合体形成機構の解析」の研究指導を行う。</p> <p>(27 齋藤 成昭、95 豊田 雄介、113 石川 健）（共同）        細胞機能の維持を担う遺伝子群の同定と機能解析を目的とした研究課題「栄養飢餓に対する細胞応答機構の解析」、「染色体の構造維持や分配に必要な遺伝子機能の解明」の研究指導を行う。</p> <p>(67 佐藤 貴弘)        食欲は健康を維持するために必要な欲求であり、複数のホルモンによって制御されている。ホルモン分泌を誘導する因子に着目した研究課題「食欲を生み出す分子メカニズムの解明」の研究指導を行う。</p> <p>(96 佐野 浩子)        ショウジョウバエを用いて細胞が糖を感知する機構や、糖の感知が異常になった時に疾患が生じる機構解明を目的とした研究課題「ショウジョウバエを用いたヘルスバイオサイエンス研究」の研究指導を行う。</p> <p>(114 椎村 祐樹)        細胞膜に存在するタンパク質グレリン受容体は、細胞伝達に機能する。グレリン受容体の活性化機構の解明を目的とした研究課題「構造情報を基盤としたグレリン受容体の活性測定」の研究指導を行う。</p> <p>(66 塩澤 誠司、112 坂井 勇介）（共同）        ゲノム編集技術やiPS細胞などの研究手法を用いて、病態解明や創薬応用を目的とした研究課題「ゲノム編集技術を用いた疾患モデルマウスの作成」、「iPS細胞を用いた疾患モデル系の確立」の研究指導を行う。</p>	<p>共同</p>
	<p>本授業は、応用選択コース（選択必修）の1つである。【概要】データサイエンスの背景にある理論や方法を学習し、実社会で統計解析や機械学習法を応用する上で必要となる方法論の修得を目指す。以下の3つの要素について集中的に学修する。Ⅰ. 数理統計学：データサイエンスを学習していく上で必須となる統計理論をゼミ形式の輪読会を通じて理解する。Ⅱ. プログラミング：RやSASを利用したデータ加工や解析の実践的なプログラミング技法を身に付ける。Ⅲ. プレゼンテーション：輪読や実習におけるプレゼンテーションを通じて、自身が行ったことをわかりやすく他者に伝える訓練を行う。</p>	<p>共同</p>



<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">専門科目</p> <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">応用選択コース</p>	<p>マネジメントサイエンス応用Ⅰ</p>	<p>本授業は、応用選択コース（選択必修）の1つであるマネジメント応用コースに属する。授業の形態は講義とし、一部演習が含まれる。【概要】本授業では、日本病院会の診療情報管理士指導者が講師となり、診療情報管理に係る実務的な知識の理解を促進するとともに、具体的な診療情報管理の実践手法についての講義および事例研究を行う。また国際統計分類に関する知識についても体系的に学修する。また、医師が講師となり、診療情報管理を行うにあたり必要な臨床医学の基礎知識の総括講義を行う。本授業の終了後、「マネジメントサイエンス応用Ⅱ」にて病院実習を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全60回)</p> <p>(12 小原 仁、164 折岡 健太郎/50回) (共同)</p> <p>診療情報管理Ⅰ（診療情報管理の意義と役割、歴史、関連法規、診療記録の記載方式）、診療情報管理Ⅱ（診療情報管理士について、求められる資質、基本業務、個人情報保護の観点からの保管管理、紙カルテ運用における診療情報管理、電子カルテ運用における診療情報管理、診療情報の提供に係る業務、診療情報管理士による改善への取り組み、診療情報管理士の活動組織）、診療情報管理Ⅲ（DPC精度と実務、医師事務作業補助者業務、がん登録の実務）、国際統計分類Ⅰ（国際疾病分類論、国際統計分類ファミリー論、国際統計分類の利用）国際統計分類Ⅱ（国際疾病分類の基本、疾病分類体系の理解）について、講義と演習を交えて概説する。</p> <p>(2) 有永 照子/10回)</p> <p>臨床医学の基礎知識について、講義にて総括する。</p>	<p>オムニバス方式・共同 (一部) 講義80時間 演習40時間</p>
	<p>マネジメントサイエンス応用Ⅱ</p>	<p>本授業は、応用選択コース（選択必修）の1つであるマネジメント応用コースに属する。診療情報管理士認定資格の受験要件となる病院実習を行う。【概要】久留米大学病院の診療情報を取り扱う部署にて40時間（5日間）の実習を行う。主に午前中は各部署における以下の業務を見学する：診療情報管理、診療情報請求、医師事務支援、癌登録、医療連携センター、病院経営企画、医療安全TQM（Total Quality Management）。DPCデータをはじめとする医療情報は、患者自身の診療に関わる一次利用だけでなく、「二次利用」により病院の指標となる統計作成や医療の質や効率の評価が行われている。実習では、院内で発生する診療情報や医療情報の処理・編集、医療情報の利活用の実践についても学ぶ。</p> <p>(担当者の役割)</p> <p>(12 小原 仁)</p> <p>実習の学科内責任者として、実習の企画と事前の学生指導、病院内担当者と連携した調整、学生指導、総括を行う。個人情報管理と守秘義務については、徹底した指導を行う。</p> <p>(164 折岡 健太郎)</p> <p>実習担当教員として、病院内の各部署の見学実習の調整、および実習中の主たる学生指導、総括を行う。</p> <p>(73 宮本 貴宣)</p> <p>実習担当教員として、病院内で診療情報利活用の実践方法を指導を行う。</p>	<p>共同</p>
	<p>マネジメントサイエンス応用Ⅲ</p>	<p>本授業は、応用選択コース（選択必修）の1つであるマネジメント応用コースに属する。診療情報管理士の認定試験を受験し、資格を取得するための演習を行う。【概要】医療情報を利活用できる高度な医療人材の養成を目標に、診療情報管理士の認定資格取得（2月に資格認定試験）に必要な知識を網羅するとともに、理解と整理を図るため、演習形式で学修を行う。診療情報管理テキストの基礎科目、専門科目全般を取り上げ、診療情報管理士試験の認定水準に到達できるように学ぶ。</p>	<p>共同</p>
	<p>臨床検査応用</p>	<p>本授業は、応用選択コース（選択必修）の1つである。【概要】本授業の選択者は、さらに臨床検査応用の中での専門領域の一つを選択して、各臨床検査部門における特色を活かした実技の修得と研究活動を体験する。テーマは後述するように多様な専門領域から選択することができ、これまでの履修科目をもとに自身がさらに研鑽を深めたい分野に着眼し、自主性をもって取り組む姿勢を涵養する。本授業では、他者との良好なコミュニケーションを築くことにも注力する。また、卒業後多彩な活躍が望めるという将来の職業選択への展望についても視野を広げる機会とする。</p> <p>(担当者の指導領域、研究テーマ例)</p> <p>(5) 糸山 貴子、3 武谷 三恵) (共同)</p> <p>一般検査における形態検査学の習熟。一般検査学の手法を用いた症例検討。モデル動物の摘出組織の組織学的解析、および機能的解析</p> <p>(3) 真田 咲子、15 福満 千容) (共同)</p> <p>細胞診スクリーニングの実践（卒後の細胞検査士資格取得に向けた指導）、組織免疫染色等を用いた症例の病理学的検討</p> <p>(10 関 律子)</p> <p>血液疾患の形態診断の習熟、臨床分子生物学的手法による症例検討</p> <p>(11 田代 恭子、86 岡村 昌尚、130 田口 頼正) (共同)</p> <p>質量分析装置を用いた一連の研究活動の実践（新たな検体検査法の開発などの探究心を身に付ける）：テーマとして、メタボローム解析による代謝異常症の化学診断、MHPG測定によるストレス度評価、慢性腎臓病におけるエネルギー代謝異常メカニズム解明など。</p> <p>(5 棚町 千代子)</p> <p>病原微生物の同定・薬剤感受性評価の技法の習熟（卒後の専門資格取得に向けた指導）、微生物検査の手法を用いた症例検討</p> <p>(6 真茅 孝志)</p> <p>臨床検査で使用される医療機器の保守管理の実践に向けた知識と技術の修得、第2種ME技術者の資格取得に向けた指導</p> <p>(9 八木 朝子)</p> <p>睡眠生理学と睡眠医療にかかわる検査の測定法、評価方法の修得、スリープラボにおける睡眠研究への参画</p> <p>(13 吉野 千代、① 西 昭徳) (共同)</p> <p>生化学検査の手法を用いた精度管理に関わる検討、健常者への介入研究</p> <p>(2) 有永 照子)</p> <p>腹部超音波検査の習熟、消化器系の形態と機能に関する検討</p>	<p>共同</p>
	<p>卒業研究</p>	<p>本授業の形態は、演習とする。【概要】応用選択コースで行った専門分野の取り組み、研究内容についてまとめ、発表する。データマネジメント選択者は新たに自由課題を用いた研究体験を行う。各コースに参加する3年生に対しては、担当教員の統括下に基本的な手法や考え方、取り組み方などを指導する。各応用選択コースで研鑽した内容をまとめて研究発表の場にて口演する。またデータマネジメント選択者は研究体験を通して将来の就業分野を確認する。各研究をもとに将来の大学院進学、研究職への視野を広げる。</p>	<p>共同</p>

学校法人久留米大学 設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	令和6年度	入学定員	3年次 編入学定員	収容定員	変更の事由
久留米大学				久留米大学				
文学部				文学部				
心理学科	87	1	350	心理学科	87	1	350	
情報社会学科	54	1	218	情報社会学科	54	1	218	
国際文化学科	106	2	428	国際文化学科	106	2	428	
社会福祉学科	52	1	210	社会福祉学科	52	1	210	
人間健康学部				人間健康学部				
総合子ども学科	50	—	200	総合子ども学科	50	—	200	
スポーツ医科学科	70	—	280	スポーツ医科学科	70	—	280	
法学部				法学部				
法律学科	224	4	904	法律学科	224	4	904	
国際政治学科	70	—	280	国際政治学科	70	—	280	
経済学部				経済学部				
経済学科	157	2	632	経済学科	157	2	632	
文化経済学科	100	2	404	文化経済学科	100	2	404	
商学部				商学部				
商学科	250	—	1,000	商学科	250	—	1,000	
医学部				医学部				
医学科	115	—	690	医学科	110	—	660	
看護学科	110	—	440	看護学科	110	—	440	
				医療検査学科	74	—	296	学科の設置（認可申請）
計	1,445	13	6,036	計	1,514	13	6,302	
久留米大学大学院				久留米大学大学院				
比較文化研究科前期博士課程				比較文化研究科前期博士課程				
比較文化専攻	30	—	60	比較文化専攻	30	—	60	
比較文化研究科後期博士課程				比較文化研究科後期博士課程				
比較文化専攻	12	—	36	比較文化専攻	12	—	36	
心理学研究科前期博士課程				心理学研究科前期博士課程				
臨床心理学専攻	15	—	30	臨床心理学専攻	15	—	30	
人間行動心理学専攻	5	—	10	人間行動心理学専攻	5	—	10	
心理学研究科後期博士課程				心理学研究科後期博士課程				
心理学専攻	5	—	15	心理学専攻	5	—	15	
医学研究科修士課程				医学研究科修士課程				
医科学専攻	8	—	16	医科学専攻	8	—	16	
総合生命科学・バイオ統計学専攻	8	—	16	総合生命科学・バイオ統計学専攻	8	—	16	
看護学専攻	15	—	30	看護学専攻	15	—	30	
医学研究科博士課程				医学研究科博士課程				
生理系専攻	4	—	16	生理系専攻	4	—	16	
病理系専攻	3	—	12	病理系専攻	3	—	12	
社会医学系専攻	8	—	32	社会医学系専攻	8	—	32	
個別最適医療系専攻	20	—	80	個別最適医療系専攻	20	—	80	
ビジネス研究科修士課程				ビジネス研究科修士課程				
ビジネス専攻	12	—	24	ビジネス専攻	12	—	24	
計	145	—	377	計	145	—	377	
久留米大学医学部附属臨床検査専門学校				久留米大学医学部附属臨床検査専門学校				
	40	—	120		0	—	0	令和6年4月学生募集停止
計	40	—	120	計	0	—	0	